

群 教 セ	G01 - 03
	平25.249集
	中・国語

中学校国語科における 古典を読み深める力を育成する指導の工夫

— 古典と表現領域との複合単元化とその実践を通して —

長期研修員 中畠 真美

キーワード 【国語一中 古典 読み深める力 表現領域 複合単元化 言語活動】

I 主題設定の理由

現行の学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等及び学習意欲を重視し、これらを調和的に育成する言語活動の充実が強調されている。国語科では〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕が新設され、小学校から古典作品を取り上げて親しむこと、中学校では「言語の歴史や、作品の時代的・文化的背景とも関連付けながら、古典に一層親しむ態度を育成すること」が求められた。「はばたく群馬の指導プラン」では、「文章の特徴や表現の仕方について考えること」「自分の考えや伝えるべき内容を相手や目的に応じて表現すること」等を国語科の課題として挙げている。

これらから、中学校古典指導で大切なことは、生徒の主体的な古典へのかかわりと小学校から一歩踏み込んだ内容理解を促す指導の工夫であると考える。〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」及び「C読むこと」の3領域の指導を通して指導する旨が今回の改訂で明示された。今後は「読むこと」に偏りがちであった指導から、他の2領域も視野に入れた展開や扱う教材の拡大、新たな作品の教材化などが必要となる。このような動きを受け、古典に親しみをもたせるための単元構想の工夫や古典の授業における言語活動の取り入れ方などが研究され、様々な表現活動と関連させた授業プランを紹介する書籍も出版されている。これらを見ても、解説を中心とした単調な授業展開からの脱却が望まれていることは明らかで、古典に親しんでいる生徒が多いとは言いがたい現状の改善が求められていることが分かる。しかし先行研究からは、古典学習への主体的な取組を促す言語活動の設定、またそうした場合の必要時数の確保等の難しさがうかがえる。さらに、単に親しむだけにとどまらない、より深い作品の内容理解に達する指導の工夫も課題である。

そこで、古典と表現領域（本研究では「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域を指すものとする）とを複合単元化し、読み取ったことを基に表現し合う活動を単元を貫く言語活動として計画的かつ系統的に設定した授業プランを構想することとした。併せて、古典を身近に感じることが大切であると考え、「古典と自己とのつながり」を意識させる学習過程を組み込む。言語活動には教科書の表現領域の単元を活用し、読解と表現とが一体となった新たな単元を設ける。協力校の実態調査からも、古典への関心が低く、自分の考えを表現することに苦手意識をもつ生徒が多いことが分かった。古典と表現領域という二つの単元を複合的に扱うことは、古典作品への理解の深化、他者との交流で自分の考えや思いを伝えるために積極的に古典とかかわろうとする態度の涵養、生涯にわたって古典に親しむ素地の育成などが期待できる。また、表現領域を教材として扱う際、目的意識を明確化することは、生徒の主体的な学習を促すとともに、教材としての扱いやすさや指導のしやすさにもつながり、「はばたく群馬の指導プラン」で示された表現にかかわる課題の解決策にもなると考える。

以上のことから、中学校国語科の古典学習において、現代を生きる自己とのつながりを意識しながら古典作品を読み、言語活動を通して古典を読み深める力を育成したいと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

中学校国語科古典指導において、古典と表現領域とを複合単元化し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連させた言語活動を取り入れることは、古典を読み深める力の育成に有効であることを、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

1 古典を身近な存在として感じること

「古典の世界を感じる（つながり1）」場面において、作者や作品の背景について知ったり本文やリズムの特徴を生かしながら音読したりすることで、古典を身近な存在として感じることができるであろう。

2 作品に対する見方を広げること

「古典の世界を広げる（つながり2）」場面において、語句や表現に即しながら登場人物の心情を考えたり他の作品や場面と比べながら読んだりすることで、古人のものの見方や考え方に対する見方を広げることができるであろう。

3 作品を読み深めること

「古典の世界を深める（つながり3）」場面において、作品から読み取ったことを基に「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連させた言語活動を行い、自分と異なる考えに触れたり自分を振り返ったりすることで、作品を読み深めることができるであろう。

IV 研究内容の概要

本研究では、目指す生徒像を「古典を感じ、読み深めることができる生徒」と設定し、「古典を読み深める力」の育成をねらいとしている。そのために、古典と表現領域の単元とを複合単元化し、適切に設定した言語活動を通してねらいに迫っていく。古典を感じるためには、古典と自己との間に「つながり」を見いだすことが必要であると考え、複合単元化した授業プランの中に「『古典と自己とのつながり』を意識させる3段階の学習過程」を組み込むこととした。

単元を貫く言語活動には、教科書の表現領域の単元を活用することで、表現領域の学習のさらなる充実化を図る。同時に、古典と表現領域それぞれの指導のねらいを効果的に実現すべく、単元指導計画もより実効的なものになるよう工夫・改善していく。

実践授業では、第2学年で「平家物語」と「パネルディスカッションをする」という二つを複合単元化した。「平家物語」の登場人物について、パネルディスカッションで討論・交流するというものであり、この実践の結果から、言語活動を通して作品を読み深めることができたかを検証した。

V 研究のまとめ

1 成果

- 単元を貫く言語活動の設定により、生徒自身が思考したり判断したりする場面を作ることができ、討論による意見の交流が作品に対する新たな見方や考え方をもつことにつながった。その結果、生徒の「古典を読み深める力」を育成することができた。
- 作品と関連したテーマ設定により、討論の目的が明確化され、考えを表現・交流する意欲を引き出すことができた。その結果、討論という言語活動にも積極的に取り組ませることができた。
- 古典作品を読むことへの興味・関心を高めることができた。古典と自己との隔たりが薄まり、主体的に古典とかかわろうとする姿勢が育ってきてている。

2 課題

- 古典に触れる機会を増やせるような単元構想の工夫を継続していく。表現領域だけではなく、「読むこと」の領域との関連や音読など、具体的な手立ての再検討が必要である。
- 人前で話すことに、まだ抵抗感が残る生徒も多い。授業の様々な場面で、発表や交流といった活動を計画的かつ系統的に取り入れていく必要がある。
- 今回の実践を通して高まった古典への興味・関心を継続させていく必要がある。多くの作品に触れさせるとともに、生徒の読書活動の推進にもつなげたい。

VI 研究の内容

1 古典を読み深める力とは

本研究において「古典を読み深める力」とは、「古典に描かれた見方や考え方、すなわち価値観を自身に照らし、読み取った古典の世界を自分の言葉で表す力」ととらえる。

これまで中学生が古典の入門期とされ、生徒たちは新鮮さや期待感をもって古典と出会っていたが、今後は小学校低学年から古典に親しむ児童の育成が想定される。そこで主たる手だけでは音読・暗唱であり、深い内容理解までは求められていない。一方中学生は知的好奇心や新しい知識の獲得への欲求も高まっており、古典を読み深める力の育成には、生徒にとってより興味深いものとなるような学習展開の工夫と同時に、効果的な言語活動の設定が必要であると考える。

そこで、本研究の手だけとして、古典と表現領域とを複合単元化する。具体的には、読み取ったことを基に表現し合う活動を単元を貫く言語活動として計画的かつ系統的に設定し、そこに生徒の古典に関する興味・関心を喚起する「『古典と自己とのつながり』を意識させる3段階の学習過程」を組み込む授業プランを構想した。このように、言語活動を通して主体的に古典とかかわることで、古典作品を身近に感じ、読み深めることのできる生徒の育成を目指す。

2 古典を読み深める力を育成する手だけについて

(1) 古典と表現領域との複合単元化について

① 「複合単元化」とは

水戸部修治氏（2013）は「複合単元」を、「『話すこと・聞くこと』『書くこと』『読むこと』の三領域のうちの二つもしくは三つの領域の指導事項を、一つの単元内で組み合わせて指導することにより、指導の効果を高めようとする単元構想」と説明している。また、「領域を『相互に関連付けて指導』する際、単独領域の単元どうしを年間指導計画の見通しのもとに関連付ける場合と、一つの単元内で複数領域を関連付けて指導する場合と考えられる。複合単元は、後者に当たる」としている。本研究では、教科書教材の古典と表現領域の単元とを組み合わせ、新たな単元を構想している。「表現領域」とは、3領域の中の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の2領域を指すものとし、古典を読み深める「読むこと」と関連付ける。このような形で複数領域の指導を組み入れることにより、双方の単元や指導事項を活かした新しい視点からの古典指導に加え、表現領域の指導の充実にもつなげることができると考える。こうした読解と表現とが一体となった構想を、本研究では「複合単元化」ととらえることとする。

② 表現領域と複合させる意義と「単元を貫く言語活動」を設定した単元構想

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は3領域の指導を通して指導することとされた。「読むこと」の指導事項の適用からの大きな転換であり、新しい古典教育が求められている証左と言える。これまで古典について指導すべき事項（以下、「事項」）は示されていなかったが、古典指導充実の方針の下に明確になった。今後は、画一的になりがちであった従来の古典指導の形にとらわれない新しい視点からの構想による「事項」の定着を図る必要がある。それらを年間指導計画に適切に位置付け、3年間を見通して系統的に指導することは、古典に触れる機会の増加を促すとともに、伝統文化である古典に生涯にわたって親しむ態度の育成に結び付くものと考える。

本研究では、古典と複合単元化させる領域を「話すこと・聞くこと」「書くこと」の表現領域に絞ることとする。生徒の中に、考えはもててもそれを自分の言葉で表現することや、基本的な知識や技能を身に付けてはいてもそれを活用することが苦手な者も少なくないからである。それらの克服には、古典に触れることで得られた各自の考えなどを交流し合う多様な言語活動を設定し、それを経て再び各自が考えなどを深める活動を展開することが有効であると考えた。

具体的には、各学年で構想した新たな単元ごとに「単元を貫く言語活動」を位置付ける（次頁表1）。複合単元化により設定した言語活動のテーマを、古典作品の読解と関連の深い内容とすることにより、目的意識が明確化され、作品理解に向けた生徒の主体的な取組が期待できる。これは、古典を読み深める力の育成や各表現活動の効果的・効率的な指導の実現につながるものである。

表1 各学年ごとに構想した単元

学年	複合させた単元	単元を貫く言語活動	関連する「事項」・指導事項（学習指導要領より）	備考
1	古典 『竹取物語』他	いろいろな古典を徹底比較！～作品の魅力を紹介し合い、みんなで古典リストを作ろう～ (紹介)	【伝】 (イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。 【話・聞】 ウ 話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。 【書】 イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。	資料編参照
	表現領域 話すこと・聞くこと 書くこと 『ポスターーションをする』			
2	古典 『平家物語』	平家物語の人々が大切にしていたものは？～自分のイチ押し登場人物について語ろう～ (討論)	【伝】 (イ) 古典に表れたものの見方や考え方につれ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。 【話・聞】 イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。	資料編参照
	表現領域 話すこと・聞くこと 『パネルディスカッションをする』			
3	古典 『おくのほそ道』	俳句でたどる「おくのほそ道」～「芭蕉道中記」を編集しよう～ (編集)	【伝】 (イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。 【書】 ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。	資料編参照
	表現領域 書くこと 『修学旅行記を作成する』			

* 【話・聞】話すこと・聞くこと 【書】書くこと 【伝】伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(2) 「『古典と自己とのつながり』を意識させる3段階の学習過程」について

生徒の古典嫌いの一因として、自分たちとはかけ離れた遠い世界のものであるとの認識が挙げられる。それを解消し、古典を身近に感じさせるには、古典と自己とがつながるという意識が重要だと考えた。そこで、各単元に表2のような3段階の学習過程を位置付けることとする。

表2 「古典と自己とのつながり」を意識させる3段階の学習過程

段階	つながりの視点	手立て
古典の世界を感じる（つながり1）	当時の様子を想像してみよう	背景知識の把握と多様な音読
古典の世界を広げる（つながり2）	自分に引き寄せて考えてみよう	他の作品や場面との比べ読み
古典の世界を深める（つながり3）	自分の言葉で表現してみよう	「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連させた言語活動

まず「つながり1」として、作品の背景を知ったり登場人物などを想像しながら音読に取り組んだりすることで、古典の世界を感じさせる。次に「つながり2」として、他の作品や場面と読み比べたり自分に引き寄せて考えられる作品に触れたりすることで、古典の世界を広げさせる。最後に「つながり3」として、広がった自分の考えを基に表現・交流活動を行い、古典の世界を深めさせる。自分の知識や経験と照らし合わせたり、今を生きる自分の思いと重ね合わせたりしながら具体的に想像することで、古典をより身近に感じさせたい。生徒たちが各単元においてこのような過程を経ながら単元を貫く言語活動に取り組むことにより、自分とは異なる考えに触れたり、自分の思いの言語化を通じ自己を見つめたりすることで、古典を読み深めることができると考える。

3 先行研究とのつながり

新しい古典指導が求められるようになったことで、単元構想の工夫や古典の授業での言語活動の取り入れ方などが研究されるようになった。これらの中には、様々な表現活動、具体的には音読や創作などと関連させた授業プランを構想しているものも見られる。このように、これまでに行われてきた活動を「単元を貫く言語活動」として明確に位置付け古典と関連をもたせた研究は、新しい古典指導に結び付くものであると考える。言語活動と作品読解に密接な関連が生まれたことは成果であり、本研究にも生かせるものである。

しかし、これらの研究は、古典に親しみをもたせることを主たる目的とする場合が多い。中学校での古典指導では、古典に親しむだけでなくもう一步踏み込んだ内容理解が期待されており、目指す能力の育成を実現する適切な「単元を貫く言語活動」の選定、通常の古典の単元に表現活動を組み込む

際に生じる指導時間の増加などが課題として考えられる。

これらの課題を基に、本研究では教科書教材を活用し、古典と表現領域とを複合単元化することとした。これにより、新たな言語活動を設定するのではなく、教科書の表現領域の活動を「単元を貫く言語活動」として、そのまま使用することができる。また、複数領域を密接に関連付けた指導は、作品理解の助けとなることが期待できる。さらに、複合単元化により指導内容も精選され、指導時間の短縮にもつながると考えている。

4 協力校における実態調査から

アンケート調査を行ったところ、それぞれの項目に「当てはまる」「少し当てはまる」と回答した生徒の割合は表3のような結果であった。

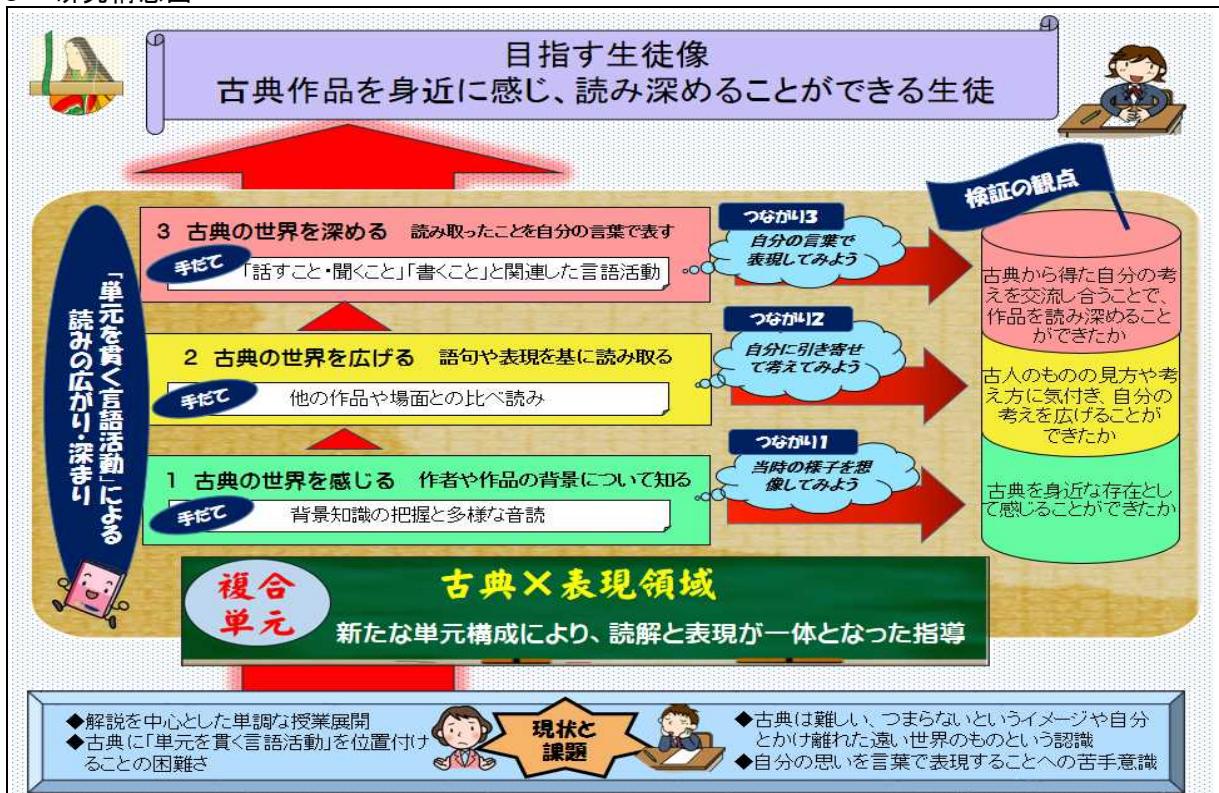
古典学習では、「古語の意味」についての理解度が低い。「作品の内容」についての関心の高さを考えると、興味はあるが理解は難しいという現状がうかがえる。また、想像しながら音

古典学習	歴史的仮名遣いを理解している	75%
	古語の意味を理解している	52%
	作品の内容を知ることが好きである	81%
	音読するとき、心情や情景・作者の思いなどを想像する	38%
	古典の学習で、昔の人と自分のものの見方や考え方を比べる	30%
表現活動	自分の考えを人前で話すことが好きである	19%
	自分の考えを文章に書くことが好きである	34%
	自分の考えを友達と交流することが好きである	67%
	友達との交流から学ぶことがたくさんあると思う	84%
	グループ内で話し合うことが好きである	78%

読したり、昔の人と自分とを比べたりする生徒が少ないとという結果から、表面的な作品理解にとどまっていることも懸念される。一方表現活動では、話したり書いたりすることに苦手意識があるが、考えを友達と交流することは大切だととらえていることが分かる。また、クラス全体での発表は苦手でも、少人数での話合いには前向きに参加している様子がうかがえる。

昨年度実施した市の学力調査でも、協力校の生徒は「話すこと・聞くこと」の「エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること」、「読むこと」の「エ 文章の構成や展開、表現の特徴について自分の考えをもつこと」などの指導事項に関する問題の正答率が低く、聞くことや自分の考えを形成することに課題があることが明らかになった。

5 研究構想図



VII 実践の計画と方法

1 授業実践の概要

対象	研究協力校 みどり市立大間々東中学校第2学年 66名 (2クラス)
実践期間	平成25年10月7日 (月) ~ 10月23日 (水) 8時間
単元名	登場人物の生き様を通して、「平家物語」の世界を読み深める ~自分のイチ押し登場人物について語ろう~ 扇の的ー「平家物語」から 話し合って考えを広げよう パネルディスカッションをする (国語2 光村図書)
単元の目標	作品から読み取ったことを基に行うパネルディスカッションを通して、「平家物語」を読み深めることができる。

2 検証計画

研究の仮説	検証の観点	検証の方法
中学校国語科古典指導において、古典と表現領域とを複合単元化し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連させた言語活動を取り入れることで、古典を読み深める力が育つであろう。	中学校国語科古典指導において、作品を読み深める力を育成するために古典と表現領域とを複合単元化することの有効性を、以下の観点から検証する。 ○観点1 〈古典の世界を感じる〉 作者や作品の背景について知ったり本文やリズムの特徴を生かしながら音読したりすることは、古典を身近な存在として感じるためには効果的であったか。 ○観点2 〈古典の世界を広げる〉 語句や表現に即しながら登場人物の心情を考えたり他の作品や場面と比べながら読んだりすることは、古人のものの見方や考え方に対する見方を広げるために効果的であったか。 ○観点3 〈古典の世界を深める〉 作品から読み取ったことを基に「話すこと・聞くこと」「書くこと」と関連させた言語活動を行い、自分と異なる考えに触れたり自分を振り返ったりすることは、作品を読み深めるためには効果的であったか。	・教師による観察 ・アンケート ・教師による観察 ・ワークシート ・アンケート ・言語活動の様子 ・生徒の自己評価 ・ワークシート ・アンケート

3 抽出生徒

A	B	C
歴史的仮名遣いの理解度が高く、正確な音読ができる。古典の世界を豊かに想像することができる。自分の考えと比較しながら話を聞いたり、根拠を明確にして表現したりすることができる。	歴史的仮名遣いについてはおおむね理解しており、音読もできる。現代語訳を基に、内容を理解することができる。自分の考えを、根拠を挙げながら表現することができる。	歴史的仮名遣いの理解が不十分なため、音読もつまずくことがある。古典は難しいと考えておらず、なかなか親しむことができない。自分の考えをもつことはできるが、根拠を挙げたり表現したりすることは苦手である。

4 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
「平家物語」のもつ独特の調子やリズムを意識して朗読し、登場人物の心情を知ったり自分の考えをもったりしようとしている。	①聞き手の意見や質問を予想して自分の考えをまとめ、分かりやすい構成を考えて話している。 ②要点や根拠などを確かめながら聞き、自分の考えと比較している。	①描写の効果や登場人物の言動の意味などを考えて古文の内容を理解している。 ②古文に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験と関連付けて考えをもつとともに、交流を通してさらに深めている。	文語のきまりや仮名遣い、作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しんでいる。

5 指導計画（全8時間）

時	段階	主な学習活動	指導上の留意点及び支援・評価	評価方法
1	1 古典の世界を感じる	<ul style="list-style-type: none"> 「平家物語」の冒頭部分「祇園精舎」を読み、作品について知る。 作品から読み取ったことを、パネルディスカッションで交流するという課題を設定し、学習に対する見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の興味を喚起するために、多様な資料を用いながら、「平家物語」という作品の特徴について押さえる。 ○楽しみながら音読・暗唱できるよう、様々な形で音読練習をさせる。 ○パネルディスカッションが意見を交流し深める話し合いであることを押さえ、テーマを設定する。 <p style="text-align: center;">テーマ：平家物語の人々が大切にしていたものは？ ～自分のイチ押し登場人物について語ろう～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品を読み深めることが最終的な目標であることを確認し、作品を読む際に心に残った人物を一人見つけていくよう伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【言】文語のきまりや仮名遣いに注意したり、作品の特徴を生かしたりしながら音読している。</p> </div>	【言】 観察 音読の様子
2		<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の様子を想像しながら「扇の的」を音読し、自分なりの感想をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代語訳や資料を活用し、物語のあらすじだけでなく、「扇の的」の舞台や源平の合戦の歴史、登場人物などもとらえられるようにする。 ○「登場人物の行動に着目すること」「描かれている情景を想像すること」という音読するときのポイントを押さえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【聞】「平家物語」のもつ独特のリズムや、表現の効果などを意識しながら音読している。</p> </div>	【聞】 音読の様子 ワークシート 生徒の自己評価
〈検証：見通し①〉 背景知識の学習と多様な音読を通して、「平家物語」をつかむことができたか。				
3	2 古典の世界を広げる	<ul style="list-style-type: none"> 「扇の的」の内容を読み取り、登場人物の心情を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○重要な語句や表現、登場人物などに着目しながら読み進められるよう助言する。 ○常に自分に引き寄せて考えられるよう、自分の考えをもつ際のポイントとして、「共感できる」「なぜだろう」「自分だったら」という観点を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【読】描写の効果や登場人物の言動の意味などを考えて古文の内容を理解している。</p> </div>	【読】 観察 ワークシート
4		<ul style="list-style-type: none"> 平家物語「敦盛の最期」と読み比べ、登場人物の心情を理解する。 パネルディスカッションで取り上げたい登場人物を一人選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「敦盛の最期」の内容を確認し、源氏方や平家方、身分などに応じて、登場人物それぞれに様々な思いがあることを、現代の自分の価値観と照らし合わせながら読み取らせる。 ○テーマに沿って、自分が最も共感できる登場人物を一人選び、その人物に対する自分の考えをもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【読】古文に表れているものの見方や考え方を基に、登場人物について自分の考えをもっている。</p> </div>	【読】 観察 ワークシート
〈検証：見通し②〉 作品に表れたものの見方や考え方を基に、登場人物について自分の考えをもつことができたか。				
5 6	3 古典の世界を深める	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ登場人物に対する自分の考えをまとめる。 パネルディスカッションのイメージをもち、準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時にもった自分の考えを「立論」という形でまとめる際、根拠を明確にして書くよう助言する。 ○同じ人物を選んだ者同士でグループを作り、考えを交流し合う。その際、意見を合意形成していくための手段として、KJ法を用いる。 ○役割を決め、発表の内容と方法を話し合うよう指示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【読】自分の経験や知識と関連付けて考えをまとめ、交流して深めている。</p> </div>	【読】 ワークシート
7		<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションを行い、討論をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分とは異なる意見を聞くことで、自分の考えを見直したり深めたりするよう助言する。 ○発言をする際には、聞き手のことを考え、分かりやすく話す工夫をさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【話・聞】自分の考えとその根拠、反論などを組み合わせて分かりやすく話したり、自分の考えと比較しながら聞いたりしている。</p> </div>	【話・聞】 観察 討論の様子 生徒の自己評価
〈検証：見通し③〉 パネルディスカッションを通して自分の考えやその根拠について発言したり、自分の考えの見直しや補足をしたりすることができたか。				
8		<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションを振り返り、平家物語やその登場人物についての自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パネルディスカッションを通して、新たな考えに気付いたり、考えが広がったりした生徒を指名し、読みの深まりを全体で共有する。 ○再度個人学習の場を設定し、「平家物語」やその登場人物について読みの深まりが見られた点に気付かせ、自分の考えを書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【読】現代を生きる自分の知識や経験、思いと重ねながら、作品を通じて考えたことを書いていく。</p> </div>	【読】 ワークシート
〈検証：見通し③〉 見直しや補足をした自分の考えを基に、平家物語について読みを深めることができたか。				

VIII 実践の結果と考察

古典を読み深める力を育成するために古典と表現領域とを複合単元化することの有効性を、見通しに沿って、それぞれ「学習活動の概略」「全体の様子」「抽出生徒の様子」の3項目から考察する。

1 古典を身近な存在として感じること

(1) 学習活動の概略

「古典の世界を感じる」第1段階は、「背景知識の把握と多様な音読」を手だてに作者や作品の背景について知る学習である。生徒には、「当時の様子を想像してみよう」というつながりの視点を示した。「古典の世界を感じる」とは古典を身近な存在として感じることであり、背景知識を踏まえて音読し、作品に描かれている世界を想像したり興味をもったりする状態ととらえる。古典学習への抵抗感を払拭することもねらいとしている。

具体的には、背景知識を学ぶ場面で映像資料を活用した。写真等で興味を喚起し(図1上)、音読時間確保のために重要事項を示しワークシートに記入させた(図1下)。映像資料は「扇の的」のあらすじの把握にも活用した。また、第1学年の既習事項である歴史的仮名遣いにはあえて触れず、音読の中で確認できるよう配慮した。

その上で、単元のねらいである「登場人物の生き様を通して作品を読み深めていく」ために、パネルディスカッションでの討論を行うという課題を設定した。

(2) 全体の様子から

古典の世界を感じることができたかどうかを、教師による観察と生徒のアンケートから検証した。

まず、背景知識を学ぶ場面では、全員がワークシートにスムーズに記入することができた。映像資料とワークシートが対応していたことで、短時間で背景知識を把握することができたと思われる。

次に、音読では第1時で「祇園精舎」を、第2時で「扇の的」を、それぞれ多様な方法(追い読み、交代読み、二人読み、グループ読み、たけのこ読み、スピード読み)(図2)で読ませたところ、積極的に取り組む様子が見られた。「二人読み」

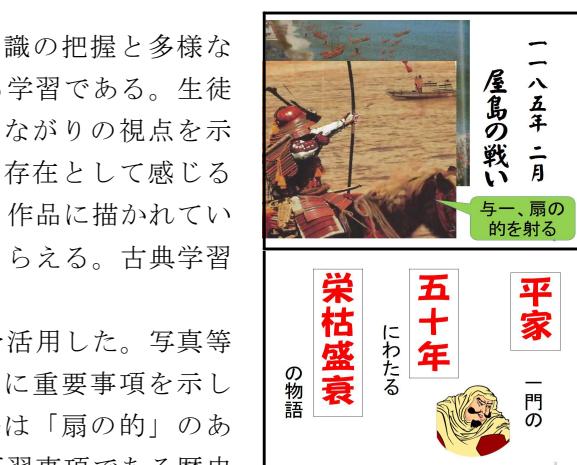


図1 映像資料

◆いろいろな音読の仕方(例)

- 交代読み…教師と生徒、男子と女子など交代で読む。
- だけのこ読み…読みたい一文を自分で決め、その箇所が来たら立って読む。
- スピード読み…通常の倍速程度のスピードで読む。

図2 多様な音読の一例

や「グループ読み」は、歴史的仮名遣いなどを確認し合う場ともなり、下位群の生徒には特に有効であった。「祇園精舎」は短く覚えやすいということもあるが、20分間で3分の1程度の生徒が暗唱していた。「扇の的」は文章も長くなり、難解な語句や表現も増えるため、暗唱こそできなかつたが、覚えようと努力している様子がうかがえた。

第2時では個人練習の時間を確保し、ペアやグループで評価し合う活動を行った。少人数での活動で抵抗感なく取り組むことができ、友達の音読への賞賛もあちこちから聞こえた。

実践前後のアンケートからも、音読に対する意識の変容がうかがえる。実践後には87%の生徒が「意欲的に取り組んだ」(図3)、78%の生徒が「心情や情景・作者の思いなどを想像しながら読んだ」(図4)と回答した。これは、作品に対する興味が喚起され、遠い世界のものという認識が薄らぐとともに、イメージの膨らみから想像力を働かせることができたからであると考える。音読時に文字を追うだけでなく、想像を広げながら読めたということは大きな成果と言える。

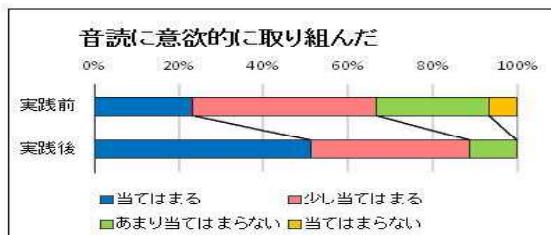


図3 意欲的に音読した生徒の変容

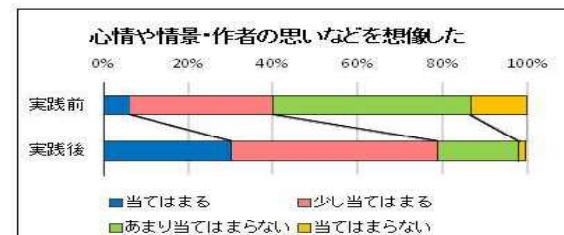


図4 想像して音読した生徒の変容

(3) 抽出生徒の様子から

抽出生徒の様子は、表4のとおりである。三名とも積極的に取り組んでいた。「平家物語」の登場人物は社会科でも学習しているためか、それにかかわる発言もあった。生徒A・Bの音読は、十分に満足できる状態であった。生徒Cは音読を苦手としていたが、友達との練習や聞き合いが自分も正しく音読できるという達成感につながったようで、楽しそうに取り組んでいた。これらから、多様な音読方法を取り入れたことは効果的であったと考える。ただ、音読は古典に親しむために重要な手立てなので、今後もより一層の工夫・改善が必要である。

以上から、第1段階の手立てとして取り入れた「背景知識の把握と多様な音読」と「当時の様子を想像してみよう」というつながりの視点は、古典を身近に感じる上で有効であったと考える。

表4 抽出生徒の学習状況

A	源氏や平家などに関する知識もあり、教師の質問に答えながらワークシートの記入を行っていた。音読は、大きな声で読んでいた。すぐに覚え始め、「祇園精舎」は暗唱までできた。「扇の的」も滑らかに読み、歴史的仮名遣いも正確に読めていた。練習後の「ミニ音読発表会」では、挙手をして発表した。
B	映像を興味深そうに見ており、特に人物のイラストに関心を示していた。ワークシートの空欄にメモを取りながら学習を進めることができた。音読でも、初めて行う音読方法に興味を示し、「祇園精舎」は問題なく読めた。「扇の的」は滑らかに読めるわけではないが、大きな声を出して読んでいた。隣の生徒と読みを確認しながら練習していた。
C	普段はノートに書く作業を面倒くさがるが、今回はしっかりと書くことができた。映像に対して、思ったことを口にするなど、興味を示した様子であった。音読では、難しい場面や分かりにくい歴史的仮名遣いなどで止まってしまうこともあったが、口を開け、しっかりと声を出して読もうとしていた。ペアでの相互評価では、隣の友達の音読に対し、賞賛の言葉を述べていた。休み時間にも、友達同士で読み合っていた。

2 作品に対する見方を広げること

(1) 学習活動の概略

「古典の世界を広げる」第2段階は、「他の作品や場面との比べ読み」を手でてに、語句や表現を基に作品を読み取る学習である。「自分に引き寄せて考えてみよう」というつながりの視点を示した。「古典の世界を広げる」とは作品に対する見方を広げるということであり、描かれた古人のものの見方や考え方方に気付き、それを基に自分の考えをもった状態ととらえる。語句や表現に即した上で、そこに自分とのつながりを見いだしながら作品の理解を深めることをねらいとしている。

単元を貫く言語活動として位置付けたパネルディスカッションに向け、人物像に焦点を絞った読み取りを行うために、ワークシートを登場人物ごとにまとめる形式とし、ヒントになる場面やセリフを取り上げた。そして「共感できるな」「なぜだろう」「自分だったら」という考えを書く欄を設け、各登場人物と自分とを比較させた（図5）。作品に対する見方を広げるためには、生徒の思考を促す主体的な学習が必要であること、人物像を読み取るためには必然的

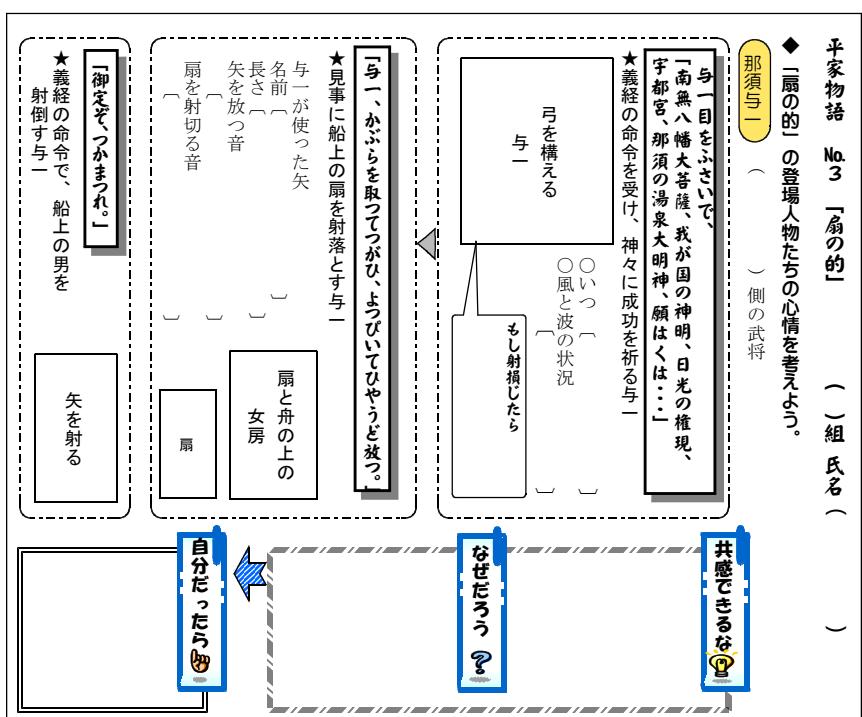


図5 登場人物について自分の考えを書くワークシート

に現代語訳を確認する状況が生じることなどから、現代語訳を細かく確認する機会は設けなかった。

次に、本実践では、他の作品ではなく同作品の他の場面との比べ読みをすることとし、「敦盛の最期」を取り上げた。特徴的な人物が登場し、様々な芸能の題材にもなるなど、「平家物語」を代表する場面の一つであることが理由である。「扇の的」では那須与一、黒革をどしの鎧を着た男、源義経の三人、「敦盛の最期」では熊谷直実と平敦盛の二人を取り上げ、登場人物の行動の意味や心情を考えながら、「平家物語」の世界観や武士の価値観をとらえていった。

(2) 全体の記述内容から

登場人物と自分自身とを重ね合わせて読み、自分の考えがもてたかどうかを、ワークシートと生徒のアンケートから検証した。

ワークシートを見ると91%の生徒が自分ならどんな行動をとるかを記述し、76%が登場人物と自分との共通点や相違点を書いていた（表5）。「共感できるな」「なぜだろう」への記述が少ないのは、教師の指示が影響したものと考える。共通点や相違点への記述に悩んでいる生徒が多くいたため、「自分だったら」への記入を先に促した。

そこに記述できるということは、その根拠となる共通点や相違点にも何らかの考えをもつ状態を表すものと判断したからである。

「扇の的」では、与一が扇を射落とす場面を中心に、三人の行動の意味や心情、武士にとっての戦の意味などを考えることができた。与一に関しては、神々に祈りつつも死を覚悟し扇を射る場面、主君の絶対的な命令に従い船上の男を射倒す場面を取り上げ、勇気を称える記述や非情な殺戮を非難する記述とともに、命令に服従せざるを得ない武士の葛藤などに触れる記述もあった。黒革をどしの鎧を着た男に関しては、舞を舞ったことに疑問を感じる記述が目立った。義経に関しては、冷徹な大将との記述が大半を占めたが、中には「弓流し」の場面から源氏の大将としてのプライドを感じたり、男を射倒す命令の裏にある大将としての責任に触れたりする記述もあった。

「敦盛の最期」では、親子の情愛や戦のむなしさ、死にゆく人間の誇りなど、人間の生き方の普遍性について考えることができた。直実に関しては、自分の息子と同年代の敦盛に見せた優しさや武士の身の上を嫌い出家する情け深さなどに共感する記述が多く、苦悩する直実に親近感を覚えた生徒が多かった。敦盛に関しては、自分たちと変わらぬ若者でありながら、武士としての誇りを守ろうとした潔さや最後まで武士たらんとした姿に、自分たちとは違う生き様を見た記述が多かった。記述内容に差はあるものの、物語の流れに沿うのではなく人物ごとにとらえたことで、各登場人物像に迫ると同時に、古人のものの見方や考え方方に気付くことができたと考える。

アンケートを見ると、「昔の人と自分のものの見方や考え方を比べた」が83%と大きく増加した（図6）。「登場人物の気持ちになって考えた」も80%おり、登場人物に特化した読み取りの効果が見て取れる。「昔の人の考えを知ることが楽しい」が81%（図7）、「『平家物語』の内容に共感した」が88%という結果からも作品に対する見方を広げることができたと考える。

(3) 抽出生徒の記述内容から

次頁表6は、抽出生徒の五人の登場人物に対するワークシートの記述の様子である。

三名の記述内容に大きな違いは見られない。それぞれ登場人物に思いを馳せ、自分自身を寄り添わせることができていた。特に、稚拙

表5 登場人物と自分自身とを重ね合わせて読んでいるかどうかの記述状況

ワークシートの記述	生徒の状況
「自分だったら」の記述あり	91%
「共感できるな」「なぜだろう」のどちらか、または両方の記述あり	76%

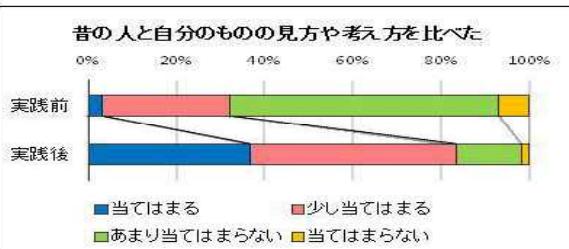


図6 自分と比較して考えた生徒の変容

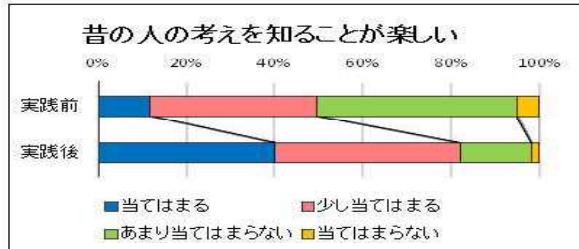


図7 昔の考え方を楽しく感じた生徒の変容

な内容ながら、生徒Cはすべての人物について共感・疑問点を記述できた。生徒A・Bに未記入の欄があるのは、各人物像をとらえる際、人物同士の比較も重視したため、一人の人物にかける時間が不足したことによる。考える時間を確保することで、記述量や内容が変わる可能性が高い。課題はあるにせよ、「『平家物語』の人々が大切にしていたものは?」というパネルディスカッションのテーマにかかわる部分について自分の考えをもつことは、概ねできていたと考えている。

以上から、第2段階の手立てとして取り入れた「他の作品や場面との比べ読み」と「自分に引き寄せて考えてみよう」というつながりの視点は、作品に対する見方を広げる上で有効であったと考える。

表6 五人の登場人物に対するワークシートの記述

		共感できるな	なぜだろう	自分だったら
A	与一	神頼みするところ。	男を殺さなくともよかつたと思う。死ぬ覚悟までしなくともよかつたと思う。	男を殺さないように足を狙う。
	男	喜ぶところ。	恥ずかしいから舞までは舞わない。	喜ぶだけ。
	義経		別にバカにされてもいいと思う。	やっぱり命が大事。
	直実	人を斬るのはつらいというところ。ちゃんと供養したいと思うところ。助けたいと思うところ。		直実と同じことをする。
	敦盛	この状況で首を取れと言ふところ。		やっぱり直実に首を取らせる。
選んだ人物：熊谷直実 大切にしていたもの：武士としての礼儀、親子の絆、人を思いやる心				
B	与一	弓を射る前に神頼みするところ。	なんでもわざわざ真ん中ではなく、要をねらって打ったのか。	まず、この仕事を引き受けなかつたと思う。はづしたら軍の恥だし、自害するかも知れないから。
	男	舞を舞つたこと。		舞は舞わず、ほめる。
	義経	命がけで弓を取りに行くところ。		プライドもあるけど、やっぱり命をむだにしたら、与一や仲間のこれまでの行いがむだになるから取りに行かない。
	直実	敦盛を助けたいと思う気持ち。		もし自分が直実だったら殺さないと思う。
	敦盛	逃げずにちゃんと首を取られるところ。		怖いけど、やっぱり負けは負けだし逃げても最低なので、自分も首をいさぎよく取られると思う。
選んだ人物：平敦盛 大切にしていたもの：風流な心、武士としての心				
C	与一	神だのみすること。	なぜ黒革をどしの鎧を着た男だったのか。	鎧を着た男を殺さなかつた。
	男	すごいと思うところ。	なんで踊ってしまったのか。	踊らないでほめる。
	義経	トップとしてのプライド。	そんな理由で命がけで弓をひろつたのか。	命の方をとる。
	直実	相手を助けようとする。	なぜ殺してしまったのか。	殺さない。
	敦盛	武士としての誇り。	なぜ助けを断つたか。	助けてもらった。
選んだ人物：源義経 大切にしていたもの：武士のプライド				

3 作品を読み深めること

(1) 学習活動の概略

「古典の世界を深める」第3段階は、「『話すこと・聞くこと』『書くこと』と関連させた言語活動」を手立てに、読み取ったことを自分の言葉で表す学習である。「自分の言葉で表現してみよう」というつながりの視点を示した。「古典の世界を深める」とは作品を読み深めるということであり、言語活動を通して生まれた新たな気付きや考えを加えて再度表現できた状態ととらえる。ここでは複合単元化した題材を活用し、「話すこと・聞くこと」の言語活動としてパネルディスカッションを位置付けた。「平家物語」の人間性溢れる多彩な登場人物は、考えの広がりや深まりを期待する討論の一手法であるパネルディスカッションで扱う題材として適している。討論を通して作品をより深く理解すると同時に、自分の考えや根拠と比較しながら立場の異なる意見を聞いたり、それに対して発言したりすることで、立場を意識した分かりやすい表現を学ぶこともねらいとしている。

まず、パネルディスカッションについて確認した。次に、自分の選んだ登場人物について200字程度で「立論カード」にまとめた。文章作成が苦手な生徒が多いので、文章構成の例を示した(図8)。そして、それを同じ人物を選んだ者同士のグループで交流した。意見を集約する際にKJ法を用い、各登場人物を象徴するキーワードを見つけたり、グループとしての中心意見や、他のグループか

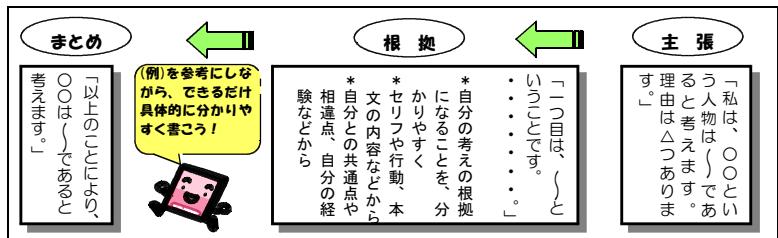


図8 文章構成の例（立論の仕方）

らの質問や反論に対する返答などを相談したりした。パネルディスカッションでは、四名のパネリストによる35分程度の討論を実施した。終了後に「話すこと・聞くこと」「作品を読み深めること」の二点について振り返り、「平家物語」やその登場人物についての新たな気付きや深まった考えを、400字程度の文章にまとめた。

第3段階では、パネルディスカッションでの「話す・聞く能力」、作品を読み深めることに関する「読む能力」を評価する。以下、両者に分けて記す。

(2) 全体の討論の様子・記述内容・生徒の自己評価から（「話すこと・聞くこと」について）

多様な意見に触れ、それぞれの考え方を比較・検討しながら話したり聞いたりすることができたかどうかを、パネルディスカッションの記録、生徒の自己評価、ワークシートの記述及びアンケートから検証した。表7は、事後の「話すこと・聞くこと」についての自己評価結果、表8は、立場の違いを尊重しながら、話したり聞いたりできたことを示している生徒の感想である。

表7 パネルディスカッション後の自己評価

「話すこと・聞くこと」について（満点4.0）	4	3	2	1	平均
①テーマについて複数の立場があることを理解し、自分の立場で意見や根拠について考えることができた。	36%	54%	10%	0%	3.3
②自分の考えと比較しながら、他のグループの意見を聞くことができた。	63%	34%	3%	0%	3.6
③聞き手が分かりやすいように工夫しながら、根拠を明確にして自分の意見を述べることができた。	7%	29%	57%	7%	2.4

表8 パネルディスカッションについての、ワークシートの記述（抜粋）

立場の違いを尊重しながら、話したり聞いたりできたことを示している生徒の感想
・直実は、なぜ自分の手柄より敦盛を優先させたのか分からなかったけれど、討論を聞いてなるほどと思った。これは自分にとってすごく良い発見だった。それに気付いたことがすごく嬉しかった。
・パネルディスカッションを通して、自分の考えや違う人の考えを比べる力を身に付けられたと思う。人によって意見は違うので、その意見と自分の意見を照らし合わせながら、これからも頑張っていきたいと思った。
・意見交流をすると、今までとは違った視点があるということに気付いた。自分たちの意見を押しつけるのではなく、違う班の意見を取り入れることでより考えが深またりするのでいいと思った。

全体討論の場では発言者が限られ、積極的な発言は十分に得られなかつた。それが自己評価における③の項目の低評価に表れたものと考える。しかし実際は、どの生徒も自分の考えを文章に表すことや、質問や反論を予想しその答えを用意することなどができるていた。話すことには課題が残るもの、各パネリストの意見を基に自分の考えと比較しながら聞いたり、それについて考えを深めたりすることができた様子は、自己評価の①や②の項目からも分かる。

また、様々な視点で物事を見る力、自分の考えと比較する力の育成にパネルディスカッションと扱った題材が適切だったことが生徒の感想からうかがえる。さらにアンケート結果からは、自分の考えを話したり書いたりすることへの抵抗感が薄まつたことが分かる（図9・10）。今後、このような言語活動を継続して取り入れていくことで、生徒の表現力を高めることができると思われる。

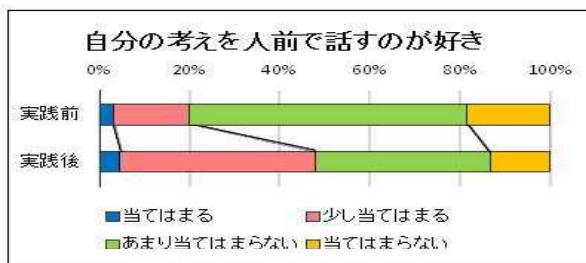


図9 自分の考えを話すことが好きな生徒の変容

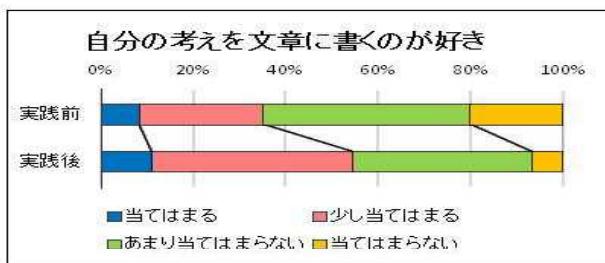


図10 自分の考えを書くことが好きな生徒の変容

(3) 抽出生徒の討論の様子・記述内容・生徒の自己評価から（「話すこと・聞くこと」について）

生徒A・Cはフロアとして、生徒Bは司会者として参加した。生徒Bは、自分の意見を発言する機会がなかったが、意見の根拠や立場の違いを比較しながら聞くことなどは「できた」と振り返っている。生徒Aは、直実班のフロアの意見をまとめ、積極的に挙手をして発言していた。気付いたことや疑問・反論などのメモもとれ、自分の質問に対する答えを受けてさらに追質問を行うなど、討論を盛り上げていた。生徒Cは、パネルディスカッション前は意欲を見せており、自分の考えを

同じグループのメンバーに話す姿が見られたので発言を促したが、結局発言することはなかった。

生徒にとって初めて体験するパネルディスカッションで、生徒Cのような日ごろから発言の少ない生徒が活躍できなかったことは課題として残る。しかし、三名の生徒の記述からも、それぞれ主体的なかかわりをもてたことを実感している様子が分かる（表9）。さらに話合いの機会を増やし、経験を積ませることで、よりよい討論にすることが期待できる。

以上から、第3段階の手だて「『話すこと・聞くこと』『書くこと』と関連した言語活動」として取り入れたパネルディスカッションは、生徒が考えを比較・検討しながら話したり聞いたりする力を育成する上で有効であったと考える。

表9 パネルディスカッションについてのワークシートの記述（抜粋）

A	今回は、自分の意見を堂々と述べることができた。その場で考えてその場で発言できた自分に驚いた。敦盛班と討論になった時、敦盛の性格について深く考えることができた。
B	パネルディスカッションをしている時、他の人の意見を聞いていると、その人への熱い思いや良さ、その人への疑問点などがわかった。パネルディスカッションを通して考え方方が変わった。
C	自分が思ってたこととちがう考えの人がたくさんいて勉強になった。

（4）全体の記述内容・生徒の自己評価から（「読むこと」について）

パネルディスカッションを通して、「平家物語」という作品を読み深めることができたかどうかを、パネルディスカッション後の生徒の自己評価及びワークシートの記述から検証した。表10は、パネルディスカッション後に行った「作品を読み深めること」についての自己評価結果である。

4点・3点の評価を「できた」ととらえると、①の新たな見方や考え方ができ、自分の考えを深められたと感じている生徒が93%、②の登場人物と自分との比較ができた生徒が86%と多くを占めていることから、生徒もパネルディスカッションに手応えを感じている様子が見て取れる。

表10 パネルディスカッション後の自己評価

「作品を読み深めること」について（満点4.0）	4	3	2	1	平均
①他のグループの意見を聞いて、新たな見方に気付いたり、自分の考えを深めたりすることができた。	73%	20%	5%	2%	3.6
②平家物語の人々の生き方と自分とを比べながら考えることができた。	36%	50%	12%	2%	3.2

ワークシートの記述では、パネルディスカッションの前後で比較した。事前は「立論カード」から、事後は「平家物語」やその登場人物についての自分の考えを再度まとめたものからの抜粋である。考えの深まった状態を「話し合う活動を経て、新たな考えが書き足されている」ととらえ、到達状況を判断するための基準を設けた（表11）。記述の分析を行ったところ、53%が十分満足、44%が概ね満足という結果であった。内容的には、最初に選んだ人物と違う人物について記述した生徒が54%、最初に選んだ人物と同じ人物だが最初とは違う考えを記述した生徒が21%、四人の登場人物のそれぞれについて新たな考えを記述した生徒が25%であった。表12は、パネルディスカッション後に自分の考えの深まりが生まれたことを示している生徒の感想である。まとめとして400字程度の文章を書かせたところ、80%以上の生徒が20分間という制限の中で書き上げることができたことからも、作品を通じて考えたことが多かったことが分かる。

表11 到達状況の判断基準

	到達していると思われる状況
A 十分満足	自分の考えと、「自分自身と照らし合わせること」「武士の生き様に関する事」「この時代の価値観に関する事」「当時の社会の姿に関する事」が書けている。
B 概ね満足	自分の考えが書けている。「気付いた・考えが変わった・共感した・納得した・疑問が生まれた」等の記述がある。
C 努力を要する	新たな考えが書き足されていない。

表12 「作品を読み深めること」についてのワークシートの記述（抜粋）

パネルディスカッション後に、自分の考えの深まりを示している生徒の感想
・最初から直実が良かったが、パネリストの言った発言で、より直実がいいと思った。直実が、敵の敦盛の親のような気持ちになっていたということに気付いた時、すごく驚きがあった。
・プライドという一言でも、人物によって大切なものはいろいろあると討論を通して考えることができた。
・あまり興味のなかった人物にも、共感できることがたくさん見つかった。武士として、人として、とても素晴らしい人たちだと思うことができた。パネルディスカッションをすることで、他の人物の心情を読み取ることができた。

生徒の記述には、古典に対する興味・関心の高まりを示しているものも多かった（表13）。生涯にわたって古典に親しむ態度の育成という観点から見ると、「平家物語」の学習がそのきっかけになったと考えることもできる。

表13 古典に対する興味・関心の高まりを示している生徒の感想（抜粋）

- ・話合いで、初めの印象とは違った印象が持てた気がした。平家物語はとても悲しい部分もあるが、それぞれの人物のプライドや性格を引き出している部分もあったので、読んでいてとてもおもしろく感じられた。平家物語が好きになった。
- ・討論を通してたくさんの考えが生まれた。自分が気付かなかった人物のよい所がわかり、その人物を考え直すきっかけになった。他の古典もいろいろと読んでみたい。

(5) 抽出生徒の記述内容・生徒の自己評価から（「読むこと」について）

抽出生徒三名の、パネルディスカッション前後のワークシートを比較したものが表14（波線部は「作品の読みの深まり」と判断した記述）である。三名とも、パネルディスカッションを経て新たな考えを書き足すことができた。生徒Aは、取り上げた四人の登場人物の共通点を見いだした。また、武士の価値観という部分にも考えが至っている。生徒Bは、パネルディスカッション前は興味がなかった義経の、新たな一面を感じ取った。自分と義経を照らし合わせることで、新たな義経の人物像に迫ることができた。生徒Cはパネルディスカッション前、義経が家来に命令をしているところから、「人まかせ」と考えていた。これは、とらえさせたい義経の人物像とはかけ離れたものであったが、友達の意見を聞くことで源氏の大将としての義経像をつかむことができた。

以上から、第3段階の手立てとして取り入れた「『話すこと・聞くこと』『書くこと』と関連させた表現活動」と「自分の言葉で表現してみよう」というつながりの視点は、作品を読み深める上で有効であったと考える。

表14 パネルディスカッション前後のワークシートの記述の比較（抜粋）

	パネルディスカッション前	パネルディスカッション後
A	熊谷次郎直実という人物は、心優しい人物であると考える。武士の心を持ち、敦盛の首をとればたくさんの手柄がもらえるということに囚われず、敵である敦盛を助けたいと思う心、結局殺してしまうけれども供養をするというところからそれが読み取れる。	パネリストの発表や討論を聞いたり、言い合っているうちに、平家物語のこの四人の登場人物は、みんな「信念」を持つていて、それが僕たちには意味の分からない、例えば平敦盛の「ただとくとく首を取れ」というようなものも、これは武士特有の価値観、この時代の価値観なんだということを、自分が討論する時にも思った。
B	平敦盛という人物は、すばらしい人物であると考える。理由は、直実が助けたいと言ったのにそれを断り死を選んだことだ。自分が敦盛の立場だったら怖くて直実のやさしさに甘え、助けの誘いにのってしまうと思うし、自分からくびをとれとは言わないと思ったからだ。	ただ作品を読むだけだとこの人はこういう人なんだで終わってしまうけど、その人について深く考えることで、心情や人物像が分かることを知った。特に源義経はあまり言い人物ではないなと思ったけど、他の人の意見を聞いてみたら良さがあるんだということが分かった。また、もし自分が義経だったらと考えると、義経は勇気ある人物なんだということに気づけた。
C	源義経という人物は、人まかせだけど、ものすごくプライドが高い人だと思う。なぜなら与一に仕事をまかせて、その上男を殺せと命令ばっかりしていたからだ。もう一つは、自分の弓を命がけでひろって、そこが大将のプライドかなと思った。	一人で義経のことを考えた時は、人まかせな人だけど強い武士だなと思ってたけど、みんなで話し合って、義経は勝利にこだわってたとか仲間思いとかいうことを知り、自分と意見が違う人がいて、いろいろと知れた。義経以外の武士のいい所やその人の生き様も知れた。

IX 研究の成果と課題

1 成果

(1) 学習への主体的な取組を促す言語活動の設定による、古典を読み深める力の育成

表現領域との複合単元化により設定した言語活動と、「古典と自己とのつながり」を意識させる3段階の学習過程を授業プランに組み込んだ結果、生徒の「古典を読み深める力」を育成することができた。特に、「単元を貫く言語活動」を明確に位置付けたことで、「平家物語」を目的意識をもって読むことができたと同時に、生徒自身が思考したり判断したりする場面を作ることができた。また、討論で自分とは異なる立場の意見を聞いたりそれに対して考えを交流したりすることは、作品に対する新たな見方や考え方をもつこととなり、自分の考えを深めることにつながった。

(2) 表現領域の指導の充実

人前で考えを述べることへの苦手意識を感じている生徒が多く、討論が成立しない心配もあったが、積極的に取り組むことができた。その理由は、「平家物語」と関連したテーマ設定により、討論の目的が明確化され、考えを表現・交流する意欲を引き出すことができたからである。また、自分が選んだ人物以外の登場人物についての意見も聞きたいという欲求から、討論に必然性が生まれ、討論を通して自分の考えの広がりや深まりが実感できたことが満足感につながった。古典との複合単元化により、表現領域の学習にも新たな視点を加えることができた。

(3) 古典への興味・関心の高まり

古典作品を読むことへの興味・関心を高めることができた。従来のような詳細な解説や現代語訳を行わなくても、生徒は作品の内容や世界観を理解することができ、人物像を読み取るために自ら資料やワークシートを振り返ったり現代語訳を読み込んだりと、主体的に作品と向き合うことができた。また、事前アンケートでは古典作品を自分の読書に取り入れたいと考えている生徒が30%であったのに対し、学習後は80%に増加している。実際に関連する図書を借りて読むなど、自発的な学習に広げていった生徒もいた。学習を通して古典と自分との隔たりが薄まり、主体的に古典とかわろうとする姿勢が育ってきている。

2 課題

(1) 単元構想の工夫

一つの単元の学習で、「古典を読み深める力」が十分に育成できるわけではないため、古典に触れる機会を増やし、計画的かつ系統的に授業を構想していく必要がある。本研究では表現領域との複合単元化による言語活動を手だてとしたが、他にも小説や韻文など「読むこと」の領域の言語活動と関連させた授業プランや、短時間でも折に触れて古典を扱うなどの工夫も考えられる。特に音読は、古典を学習する上で欠かせないものであるが、今回は、第1段階の学習過程でのみ扱ったため、すべての生徒を十分満足する状態に引き上げることはできなかった。単元全体を通して音読を取り入れる工夫も必要である。また、単元を貫く言語活動とのかかわりから焦点を絞り込んだ読み取りになっているため、文法事項など古文を読む際の基礎的・基本的な技能に関する指導が不十分になることも懸念される。それらの解決のためにも、さらなる単元構想の工夫が必要である。

(2) 「話すこと・聞くこと」にかかる言語活動の充実

パネルディスカッションに積極的に取り組めたとはいえ、人前で話すことにはまだ抵抗感の残る生徒も多い。少人数での交流同様、クラス全体であっても自分の考えを自信をもって述べられるようにしていきたい。パネルディスカッションの手法や考え方には、各単位時間や別の指導場面にも応用できるものがあるので、日々の授業に積極的に導入し、自分の考えを述べる経験を積ませる必要がある。さらに、討論や話合いの質の向上を図るために、3年間を見通して、発表や交流といった言語活動を計画的かつ系統的に取り入れていく必要がある。

(3) 古典への興味・関心の継続

生徒の中に芽生えた古典への興味をさらに確固たるものにするためにも、多くの作品に触れさせたい。今回は、より実効的で汎用性の高い授業プランにすることを考え、本来10時間計画であるところを8時間で実施した。それにより生み出された時間を活用し、関連する作品を紹介したり調べ学習を取り入れたりすることもできる。さらに、生徒の自発的な読書活動につなげるなど、今回の実践を通して高まった古典への興味・関心を、継続させていく必要がある。

X 古典好きな生徒を増やすために

1 古典を読み深める力をさらに育成するための授業プランの作成

古典の指導の幅が広がったことをきっかけに、新しい視点での古典学習をさらに継続・発展させていく。新教材を導入して単元構想を行うこともできるが、関連をもたせやすい表現領域との複合単元化は、比較的容易に取り組むことができると考える（次頁表15）。学習指導要領で表現領域の言語活

動例を見ると、古典と組み合わせやすいものが多くある上、表現領域との複合単元化は、スピーチや物語の創作などの表現活動を計画的かつ系統的に実施することにもつながる。そのように新たな切り口で単元を構想する場合は、年間指導計画に明確に位置付けることが重要である。年間を見通して、古典の指導を適切に計画・実践していきたい。

表15 古典と複合単元化することが考えられる、表現領域の単元（光村図書）

学年	領域	「話すこと・聞くこと」「書くこと」の単元	古典の単元
1年	話す 聞く	◆友達をみんなに紹介しよう 取材してスピーチで伝える ◆話題をとらえて話し合おう バズセッションをする ◆言葉を探検する ポスターセッションをする （「書くこと」とも関連）	いろは歌 七夕に思う 蓬莱の玉の枝 (竹取物語)
	書く	◆わかりやすく説明しよう 観点を決めて書く ◆項目を整理して伝えよう 案内文を作る ◆調べたことを報告しよう レポートにまとめる	
2年	話す 聞く	◆印象に残る説明をしよう プレゼンテーションをする ◆話し合って考えを広げよう パネルディスカッションをする ◆身近な人の「物語」を探る インタビューして文集にまとめる （「書くこと」とも関連）	枕草子 扇の的（平家物語） 仁和寺にある法師 (徒然草)
	書く	◆気持ちを込めて書こう 手紙を書く ◆立場と根拠を明確にして書こう 意見文を書く ◆表現の仕方を工夫して書こう 視点を変えて物語を書く	
3年	話す 聞く	◆自分の魅力を伝えよう 記者会見型スピーチをする ◆三年間の歩みを編集しよう ポートフォリオを編み、語り合う （「書くこと」とも関連）	君待つと (万葉・古今・新古今)
	書く	◆説得力のある考えを述べよう 批評文を書く ◆文章の形態を選んで書こう 修学旅行記を作る	夏草（おくのほそ道）

2 学校図書館の活用

生徒の多読に結び付けるには、学校図書館の活用が欠かせない。司書との連携を密にし、授業で扱う作品はもちろんのこと、時代やジャンル、作者などにも配慮して図書を揃えておく必要がある。それらをいつでも手に取れるように工夫することで、生徒が古典作品に触れる機会を増やす。さらに、図書委員会の活動や公立図書館などとの連携が図れれば、さらに古典作品が身近になると考える。

＜参考文献＞

- ・河野 康介・佐藤 喜美子 編著 『中学校国語科新授業モデル 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項編』 明治図書 (2011)
- ・館山 知昭 『中学校国語科において古典に親しむ態度を育成するための指導法の研究－「平家物語」の学習における課題解決学習の単元構築－』 青森県総合学校教育センター (2012)
- ・田中 洋一 編著 『中学校国語科 新しい教材と視点で創る古典の授業 伝統的な言語文化の享受と継承』 東洋館出版社 (2010)
- ・花田 修一 監修・編著 岩崎 淳 編集協力 『伝統的な言語文化の学習指導事例集3 古文・漢文を中心とした学習指導事例集』 明治図書 (2011)
- ・藤森 浩樹 他 『国語科における思考力、判断力、表現力等の育成』 熊本県立教育センター 研究紀要第40集 (2011)
- ・水戸部 修治 著 『小学校国語科 授業&評価パーフェクトガイド』 明治図書 (2013)

＜研究協力校＞

みどり市立大間々東中学校

＜研究協力者＞

松島 有依

＜担当指導主事＞

上原 清司 委文 弥生

単元名	「竹取物語」と他の古典作品を比較し、特徴をつかむ ～作品の魅力を紹介し合い、みんなで古典リストを作ろう～
単元の目標	古典作品を紹介するポスターセッションを通して、「竹取物語」の魅力に気付いたり、古典には様々な種類の作品があることを知ったりすることができる。

■ 本時の展開 (1/10) 見通し①

- (1) ねらい 「いろは歌」の音読や「七夕に思う」の学習を通して、様々な古典作品が読み継がれてきたことを知るとともに、単元全体の学習についての見通しをもつ。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート①
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 単元のねらいと学習内容を知る。	3分	・小学校で学習してきた古典作品を思い出すとともに、これから「竹取物語」を中心とした古典を学習していくことを伝え、今後の学習に対する見通しをもたせる。
【学習課題】 古い時代から現代まで、様々な古典が読み継がれてきたことを知ろう。		
2 「いろは歌」を音読する。 「いろは歌」のリズムを味わいながら、楽しく音読しましょう。	10分	・「いろは歌」について知っていることを発表させる。 ・七五調の形式や、仮名四十七文字を一度も重複することなく、意味ある歌としていることなどに気付かせる。 ・おおまかな意味をとらえ、リズム良く音読させる。
3 「七夕に思う」を音読し、七夕に寄せる人々の思いを時代ごとにとらえる。 様々な古典作品に込められた「七夕」への思いを想像しましょう。 ・時代によって、七夕に込めた思いも違うんだな。 ・昔の人も今の自分たちと同じように七夕を楽しんでいたなんて驚きだ。	30分	・当時の人々の様子や思いを想像させながら音読させる。 ・各時代の人々の思いを想像し、それをまとめられるようなワークシートを作成する。 ・想像させたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ◆「万葉集」 当時の人々が天の川を見ながら何を思っていたか。 ◆「徒然草」 当時の人々が七夕の季節をどう感じていたか。 ◆「芭蕉の句」 人々が短冊に書き付けたであろう願い事は何か。 ◇「いろは歌」や七夕に関する記述を通して、古典の世界を身近に感じ、関心をもっている。 (観察・ワークシート)【読】
4 今後の学習について見通しをもつとともに、ポスターセッションのテーマを確認する。 テーマ：いろいろな古典を徹底比較！ ～作品の魅力を紹介し合い、みんなで古典リストを作ろう～	7分	・小学校で触ってきた古典作品を出し合い、それについての感想を交流させる。 ・古い時代から現在まで、様々な古典作品が読み継がれてきたことを確認した上で、それぞれの作品の魅力をポスターセッションで紹介し合うという課題とテーマ、作品を読み深める際の目標を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 目標 古典リストを作成することで、様々な種類の作品があることを知ること。そして「竹取物語」が千年以上読み継がれてきた理由を考えること。 </div>

■ 本時の展開 (2/10) **見通し1の②**

- (1) ねらい 「竹取物語」という作品について知る。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート②③
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は「竹取物語」の背景知識と歴史的仮名遣いについて学習することを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 <p>[学習課題] 「竹取物語」という作品について知ろう。</p>
2 「竹取物語」のあらすじをつかみ、背景知識について知る。 「竹取物語」がどんな物語なのか、あらすじをつかみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> かぐや姫のお話は知っている。 同じお話なのかな。 千年以上も前に書かれた物語なんてすごいな。 小学校の時に、授業で勉強したな。 	20分	<ul style="list-style-type: none"> 昔話「かぐや姫」を思い出させ、昔話との共通点や相違点を確認した上で、「竹取物語」と同じ作品であることを説明する。 全体のあらすじを大まかにつかむために、教科書の図版や資料集などの視覚に訴える資料を活用し、当時の様子を想像しやすくする。 押さえたい構成 <ul style="list-style-type: none"> 1 かぐや姫の誕生と成長 2 貴公子たちの求婚と失敗 3 かぐや姫の昇天 4 帝が富士山で燃やした手紙と薬 「竹取物語」は、千年以上も前に仮名で書かれた現存する最古の物語であること、紫式部が「源氏物語」の中で「物語の出で来はじめの祖」と記していることなどを知らせる。 冒頭部分は、小学校でも扱っているので、その時の学習を思い出しながら音読させる。
3 歴史的仮名遣いのきまりについて知る。 冒頭部分の古文から、現代とは違う仮名遣いをしているものや、今では見られない語などを抜き出しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 千年の間に、言葉もずいぶん変化しているんだな。 古文をすらすら読めるように、仮名遣いのきまりをしっかり覚えよう。 	25分	<ul style="list-style-type: none"> 冒頭部分はすでに内容が理解できていることを考慮し、仮名遣いの違いや文末の言葉の違い、現代では使われなくなった言葉や、違う意味で用いられている言葉など、古語と現代語との違いに気付かせるために用いる。 歴史的仮名遣いのきまりについては、ワークシートでいつでも振り返って確認できるようにしておく。 <p>◎歴史的仮名遣いに対する理解が不十分な生徒には、どのように音読していたかを思い出させる。</p> <p>◇古文を参考に歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し、言葉遣いや古語の意味を理解している。 (観察・ワークシート)【言】</p>
4 次時の予告を聞く。	2分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、「竹取物語」を音読していくことを知らせる。

■ 本時の展開 (3／10) **見通し1の③**

(1) ねらい 当時の様子を想像しながら「蓬莱の玉の枝」を音読する。

(2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート④

(3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は「蓬莱の玉の枝」を様々な方法で音読することを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
<p>[学習課題] 「蓬莱の玉の枝」を、歴史的仮名遣いに気を付けて正しく音読しよう。</p> <p>歴史的仮名遣いに注意しながら、何度も「蓬莱の玉の枝」を音読しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> とてもリズムの良い文章だな。 大きな声を出して読もう。 音読しながら、仮名遣いも覚えられるようにしよう。 	30 分	<ul style="list-style-type: none"> 前時で学習した歴史的仮名遣いに注目させるとともに、現代の文章と古典の文章とで異なる言葉があることにも目を向けさせる。 古文特有のリズムを味わいながら音読するよう助言する。 楽しみながら音読できるように、読ませ方を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ①追い読み → ②交代読み → ③二人読み → ④グループ読み → ⑤たけのこ読み → ⑥スピード読み </div> <ul style="list-style-type: none"> 暗唱できそうな生徒には、各文頭のみ記したワークシートを用意し、積極的に挑戦させる。 <p>◎滑らかに音読できない生徒には、二人読みやグループ読みの際に友達同士で確認するよう伝える。</p>
3 ミニ音読発表会を行い、お互いの音読を聞き合う。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> リズムを意識して読めた生徒を賞賛し、読む際の参考にさせる。 暗唱できなくても、歴史的仮名遣いなどに注意しながら読むことを重視し、正確に音読させるようにする。 友達同士で相互評価させる。 全体の前で発表させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◇文語のきまりや仮名遣いに注意したり、作品の特徴を生かしたりしながら音読している。 (観察・発表)【言】 </div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、かぐや姫に求婚した五人の貴公子の冒険談を読み、人物像をとらえていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (4／10) 見通し2の①

- (1) ねらい 五人の求婚者のエピソードを比較しながら読み、それぞれの人物像と話の面白さをとらえる。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑤⑥
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は五人の求婚者のエピソードを中心に、「竹取物語」を読み進めていくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 資料集や教科書の注釈を用い、かぐや姫に求婚した五人の貴公子と与えられた難題を確認する。 <p>[学習課題] 五人の貴公子の求婚のエピソードから、それぞれの人物像をとらえよう。</p>
2 くらもちの皇子の架空の冒険談について読み、人物像をとらえる。 くらもちの皇子の冒険談から、手の込んだ嘘を見つけましょう。 <ul style="list-style-type: none"> かぐや姫も信じてしまうなんて、嘘の上手な人だな。 嘘についてまでかぐや姫と結婚したかった気持ちは分かるな。 	20 分	<ul style="list-style-type: none"> 現代語訳を活用しながら内容を確認し、かぐや姫をも信じ込ませたくらもちの皇子の作り話の巧みさを中心に考えさせる。 かぐや姫を信じさせるための巧みな嘘を見付けるよう投げかけ、嘘についてまでかぐや姫と結婚したかった思いをとらえさせる。 計略の失敗のいきさつを解説文から確認し、くらもちの皇子の人物像を考えさせる。 自分に引き寄せて考えられるよう、「自分だったらどうするか」という視点から、考えをもたせるようにする。
3 他の四人のエピソードを基にそれぞれの人物の思いや行動について考え、話の面白さをとらえる。 他の四人の貴公子の冒険談も読み、それぞれの人物の思いや行動をとらえ、自分と比較してみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 人物によって、様々な思いがあったんだな。 自分だったら、やっぱり同じような行動を取るかもしれない。 なんだか考えることは、今の自分たちと変わらないな。 	25 分	<ul style="list-style-type: none"> 教科書には載っていないエピソードであることを考慮し、資料集のあらすじを中心にワークシートにもまとめ、内容をつかめるようにする。 石作の皇子は「未練がましい男」、あべのみうしは「だまされやすいお人好し男」、大伴のみゆきは「逆上しやすい男」、いそのかみのまろたりは「気の毒な男」など、その人物の特徴を分かりやすく示し、想像しやすくする。 映像資料を活用することで。考える時間を確保できるようする。 くらもちの皇子とも比較しながら、それぞれの人物像をとらえるよう助言する。 自分に引き寄せて考えられるよう、「自分だったらどうするか」という視点から、考えをもたせるようにする。 <p>◎考えがもてない生徒には、自分との共通点を見つけるよう助言する。</p> <p>◇古文に表れているものの見方や考え方を基に、登場人物について自分の考えをもっている。 (ワークシート)【読】</p>
4 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、登場人物たちの思いを考え、現代に通じるところを探していくことを知らせる。

■ 本時の展開 (5／10) 見通し2の②

- (1) ねらい かぐや姫や翁たち、帝の行動から、登場人物それぞれの思いを考え、現代に通じるところを探して交流し合う。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑦
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は解説文と本文からかぐや姫、翁たち、帝の心情を読み取り、そこから考えた現代と通じるところを友達と交流することを知らせ、学習に対する見通しをもたせる。
【学習課題】 登場人物の思いを考え、現代に通じるところを友達と交流しよう。		
2 かぐや姫の告白、翁たちの嘆き、帝の行動などから、それぞれの人物の思いをとらえる。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> かぐや姫と翁たちの別れの悲しみや、帝の行動の意味などを想像させる。 考えさせたい事柄 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆かぐや姫について 月を見て嘆き悲しむ理由、翁たちへの告白、帝に贈った不死の薬</p> <p>◆翁たちについて 親としてかぐや姫の嘆きを心配する姿、かぐや姫との別れの悲しみ</p> <p>◆帝について 二千人の兵士で翁の家を守らせたこと、不死の薬を飲まず月に最も近い富士山で燃やしたこと</p> </div>
3 五人の貴公子のエピソードやかぐや姫の昇天の場面を基に、現代にも通じる部分がないか考える。	30 分	<ul style="list-style-type: none"> 喜び、悲しみ、怒り、憎しみ、欲望など、現代に生きる自分たちと共通する思いはないか、考えさせる。 自分の考えをまとめる際は、根拠を明確にして書くよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>根拠 … 人物の行動、言葉、心情を表す叙述</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 前時までに記入したワークシートを基に、自分との共通点や相違点だけでなく、自分のこれまでの経験や知識と関連付けて書くようにさせる。 交流する際も、根拠を明確にしながら話すよう助言する。 小学校で触ってきた既習の古典作品とも比較するよう指示する。 <p>◎交流は少人数のグループで行い、自分の考えを発表しやすい雰囲気を作る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分の経験や知識と関連付けて考えをまとめ、交流して広げている。 (ワークシート・観察)【読】</p> </div> </div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、ポスターセッションについて理解するとともに、その準備を進めていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (6 / 10) 見通し3の①

- (1) ねらい ポスターセッションの意義と方法を理解するとともに、グループを作ってポスターセッションで紹介する事柄について話し合う。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート⑧⑨
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3分	・本時はポスターセッションの方法を理解するとともに、グループごとに準備をしていくことを知らせ、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] ポスターセッションに向けて、グループで話し合おう。		
2 ポスターセッションの具体的なイメージをもつ。 ポスターセッションの意義と方法を確認しましょう。 ・ポスターセッションで交流するのは楽しそうだな。 ・みんなが聞いてくれるようなポスターを作りたいな。	10分	・ポスターセッションの特徴として、「調べたことをポスターにまとめ、それを基に説明や交流を行う発表会であること」、「質疑応答などを行いながら理解を深めること」の2点を確認する。 ・ポスターはグループごとに作成すること、前半と後半で発表するグループを分け、聞き手は興味のあるポスターの前に集まって聞くことなどを確認する。 ・発表者と聞き手の距離が近いため、聞き手の反応に注意しながら分かりやすく話す力が求められることを押さえよう。
3 グループに分かれ、紹介する作品を選ぶ。 小学校で出会ってきた古典作品の中から、紹介したい作品を選びましょう。	15分	・グループは、作業分担のしやすい4人編制とする。 ・このポスターセッションは、古典作品の特徴を紹介し合い、それらと比較しながら「竹取物語」の魅力を探っていくことが目的であることを確認する。 ・小学校で既習の古典作品の中から、紹介したい作品を選びようにさせる。 【既習作品】 百人一首 俳句 故事成語 枕草子 平家物語 論語 徒然草 狂言 落語 など
4 選んだ作品について、どんな情報を集めれば良いか、どんなポスターを作成するかについて話し合う。 グループで、ポスター作成のための計画を立てましょう。 ・みんなが知りたい情報は何か。 ・他の作品にも、現代と通じるところはあるのだろうか。	20分	・どんな工夫をすれば、見る人の興味を引き、分かりやすいポスターになるか考えさせる。 ・ポスターに書く内容については、共通事項を示し、それにグループごとの工夫を加えるよう助言する。 【共通事項】 ジャンル（そのジャンルの特徴） 作者 時代 あらすじや内容 現代にも通じるところ 「竹取物語」との比較 ・現代にも通じるところについては、小学校で学んだときの感想や資料集などから読み取れる範囲で良いことを伝える。 ◎話合いに参加できない生徒がいることを考慮し、司会を交代で行うよう指示する。 ◇テーマについて具体的に考え、交流を通して必要な情報を検討している。 (ワークシート・観察) 【関】
5 次時の予告を聞く。	2分	・次時は、必要な情報を整理し、ポスターに分かりやすくまとめていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (7/10) **見通し3の②**

(1) ねらい グループで話し合いながら、聞き手を意識した効果的なポスターを作成する。

(2) 準備 教科書 資料集 ワークシート⑩⑪ 模造紙 マジックペン

(3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は、選んだ古典作品を紹介するポスターを作成するなど、ポスターセッションに向けて準備を進めることを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
【学習課題】 聞き手を意識した、効果的なポスターを作成しよう。		
2 グループごとに、必要な情報を選択する。 話し合いながら、ポスターに載せる情報を選びましょう。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 前時に確認した共通事項を、再度確認する。 何を中心に、どのような順番で説明するか、どのように提示すれば分かりやすいかを考えさせる。 「竹取物語」と比較し、感じしたことなども発表するよう伝える。 発表では誰がどの部分を担当するのか、役割分担を相談させる。
3 聞き手を意識したものになるようキャッチコピーとレイアウトについて話し合い、グループで協力しながらポスターを作成する。 集めた情報を整理しながら、ポスターに分かりやすくまとめましょう。 <ul style="list-style-type: none"> みんなの意見の良いところを探しながら話し合おう。 みんなが興味をもちそうなキャッチコピーを考えよう。 	30 分	<ul style="list-style-type: none"> ポスターの見出しどなるキャッチコピーは、説明を聞いてみたいと思うような聞き手の心をつかむ言葉を使うなどの工夫をさせる。 クイズ形式の発表などを取り入れても良いことを伝える。 レイアウトは、見やすさと分かりやすさを重視し、文字の大きさや分量、図の配置を考えながら下書きを行い、色の使い方も工夫させる。 グループ内での作業分担を明確に行わせ、全員が作業に参加できるようにする。 発表メモは家庭学習とし、自分の発表にかかる原稿を考えさせる。 <p>◎グループ全員でポスターを作成することを確認し、各自が必ず何らかの内容を担当するよう指示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ◇収集した情報を整理し、キャッチコピーや図などを効果的に用いて、分かりやすくポスターを作成している。 (観察・ポスター)【書】 </div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時も、続けてポスターの作成を行い、その後発表練習をしていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (8／10) **見通し3の③**

- (1) ねらい グループで協力し合ってポスターを仕上げ、発表のリハーサルを行う。
 (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑪ 模造紙 マジックペン ストップウォッチ
 (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は、前時に引き続きポスターを作成するとともに、発表練習などポスターセッションに向けて準備を進めることを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 実際のポスターセッションをイメージしながら、発表準備を行おう。		
2 グループごとに、ポスターを仕上げる。	15 分	・前時の確認事項を思い出させ、協力し合ってポスターを完成させるよう指示する。
3 ポスターセッションの流れを確認する。	15 分	・ポスターセッションの流れと発表の持ち時間を確認し、発表場所や前半に発表するグループと後半に発表するグループ、発表内容を予告する順番などを決める。 ・発表の際、ポスターを指し示すタイミングや時間配分をどうするのかなどについて考えさせる。
4 グループごとに、リハーサルを行う。 グループ内でお互いに聞き合いながら、発表練習を行いましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・聞き手を意識した分かりやすい発表になっているかな。 ・声の大きさや話す速度はどうだろう。 ・いい発表になるよう、お互いにアドバイスできるようにしよう。 	15 分	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習で作成してきた発表メモを読むのではなく、聞き手の反応を見ながら話せるように練習させる。 ・グループで互いに聞き手の立場になり、発表のための話し方や声量、視線、ポスターの示し方などが分かりやすくなっているかを検討させる。 <p>◎発表の苦手な生徒には、個別指導を行い、自信をもって発表できるように支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・想定される質問については、答えを準備しておくよう指示する。 ・必要があれば、休み時間や放課後などの時間を活用させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ◇聞き手を意識して、分かりやすい発表の流れを工夫し、リハーサルを行っている。 </div> <div style="text-align: right; margin-top: 5px;"> (観察) 【話・聞】 </div>
5 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、実際にポスターセッションを行うことを知らせる。

■ 本時の展開 (9/10) 見通し3の④

- (1) ねらい ポスターセッションを行い、様々な古典作品について交流する。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート⑫ ポスターセッションに必要な諸道具
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	2 分	・本時は、実際にポスターセッションを行って古典作品を紹介し合うことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。

[学習課題] 小学校で出会った古典作品について、ポスターセッションで交流しよう。

2 ポスターセッションの注意点を確認する。 有意義な交流になるよう、自分の役割をもう一度確認しましょう。 ・他のグループの発表をしっかりと聞き、いい交流ができるようにしよう。	5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・発表するときと聞くときに気を付けることを確認する。・聞き手は発表の要点や疑問、感想などをメモに取り、発表の後に質問して意見を交流できるよう、心構えをもたせておく。 ・発表の仕方やポスターのまとめ方などについても、気付いたことを書き留めておくよう指示する。 ・ポスターセッションでの交流を基に、様々な古典作品と「竹取物語」を比較して、「竹取物語」が長く読み継がれている理由を考えいくことを確認し、発表を聞く際の視点にさせる。
3 ポスターセッションを行う。 ポスターセッションの流れ (前半1回目の例) ①(予告)発表内容の紹介 (30秒) ②(移動)聞き手は聞きたいグループのポスターの前に移動 (1分) ③(発表)1回目の発表 (6分) ④(交流)質疑応答 (4分) ⑤(移動)聞き手は別のグループのポスターの前に移動 (1分)	4 1 分	<ul style="list-style-type: none"> ・進行計画の時間配分に沿って、ポスターセッションを行う。発表時間を前半・後半に分け、それぞれ2回ずつ発表させる。 ・[予告]の際は、多くの人に聞きに来てもらえるように、キャッチコピーなどを用いて発表内容をアピールするよう助言する。 ・[発表]の際は、ポスターの貼り方や発表者の立つ位置など、説明しやすい場所を工夫させる。また、ポスターやメモばかり見ず、聞き手の反応を見ながら説明するよう助言する。 ・[交流]の際は、聞き手にはメモを基に質問や感想を具体的に述べるよう、発表者には全体に向かって説明するよう指示する。 <p>◎メモを取ることが苦手な生徒には、作品の特徴について聞くなど、視点を絞った聞き取りをさせる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">◇発表の構成を工夫し、聞き手の反応に注意しながら話したり、意欲的に発表を聞き、疑問点や感想を述べたりしている。 (観察・発表)【話・聞】</p>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、ポスターセッションを振り返り、「竹取物語」の学習のまとめをしていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (10/10) **見通し3の⑤**

- (1) ねらい ポスターセッションを振り返り、古典リストを作成するとともに、再認識した「竹取物語」の魅力について自分の考えをまとめる。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート⑬⑭ 模造紙 マジックペン
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3分	<ul style="list-style-type: none"> 本時はポスターセッションを振り返り、改めて気付いた「竹取物語」の魅力を文章に書き表すことで、学習のまとめをしていくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
<p>[学習課題] ポスターセッションのまとめを行い、「竹取物語」が読み継がれてきた理由を考えよう。</p>		
2 ポスターセッションでの発表について、各自やグループで自己評価する。	7分	<ul style="list-style-type: none"> 最初に、発表者と聞き手の立場それぞれについて評価させる。各自で発表を振り返り気付いたことや友達の発表から学んだことなどをワークシートに書かせる。 次に、グループの中で、自分たちの発表について、お互いに気付いた点、良かった点や改善点などを出し合い、交流させる。 評価の観点 <ul style="list-style-type: none"> ●発表の内容や、ポスターのまとめ方について ●発表の仕方について ●発表の聞き方や質疑応答の仕方について
3 ポスターセッションを振り返り、全員で「古典リスト」を作る。	10分	<ul style="list-style-type: none"> 全員で話し合いながら、クラスで一枚の模造紙にリストを作成し、教室に掲示できるようにする。リスト作成にかかる話し合いは、教師主導で行う。 作品のジャンル、作者、時代を中心に分類・整理する。 小学校で出会ってきた作品や「竹取物語」だけでなく、今後中学校で出会う作品なども紹介する。
4 「竹取物語」がなぜ現代まで読み継がれてきたかについて、自分の考えをまとめる。	25分	<ul style="list-style-type: none"> 古典リストを参考に、他の作品と「竹取物語」を比較し、「竹取物語」の魅力は何かを考えさせる。 「竹取物語」の登場人物の行動や心情が現代人と共通していることに目を向けさせ、現代に通じる面白さに気付かせる。 <p>◎書く内容が絞り込めない生徒には、ポスターセッション前と比べて、新たに気付いたことを加えながらまとめるよう助言する。</p> <p>◇現代を生きる自分の知識や経験、思いと重ねながら、作品を通じて考えたことを書いている。 (自己評価カード・ワークシート)【読】</p>
5 教師の話を聞く。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 古典の楽しさや作品の奥深さを伝え、中学校での古典学習への興味・関心や意欲を喚起できるようにする。

竹取物語

No.1 「七夕に思う」 () 組 氏名 ()

◆古典作品に表れた昔の人々の七夕への思いを想像してみよう。

◆昔の人々の思いと自分との間に共通点や相違点はないだろうか。感想を書いてみよう。

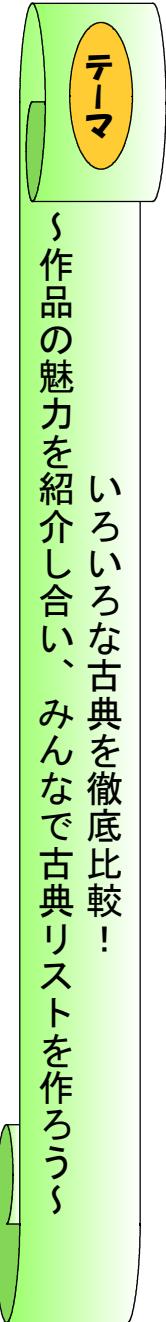
感想

今まで読み継がれてきた様々な古典を、

「ポスターセッション」で紹介し合おう！

いろいろな古典を徹底比較！

→作品の魅力を紹介し合い、みんなで古典リストを作ろう！



時代	古 典	七夕とは	当時の人々の思い
奈良時代 (約一千二百年前)	「万葉集」	彦星と織女姫が会う日	
平安時代 (約千年前)	「枕草子」(清少納言) 「源氏物語」(紫式部)	書道・和歌、楽器など芸術的な技術の上達を願うもの	・文字を美しく書きたい ・上手に和歌を詠みたい
鎌倉時代 (約七百年前)	「徒然草」(兼好法師)	・上手になりたい	・琴や笛などが上手になりたい
江戸時代 (約三百年前)	俳句(松尾芭蕉)	秋の行事	秋の行事を書いた
現代	自分の七夕への思い	短冊	

◆「竹取物語」という作品について学ぼう。

○()時代に成立した()というジャンルの作品。

作者は不明。

空想的な作り話

○千年以上も前に()で書かれた現存する()の物語。

紫式部「物語の出で来はじめの祖」

○竹の中から生まれ、()夫婦に育てられた美しい()が、五人の貴公子だけでなく、帝の求婚にさえも応じずに月の都に戻つていく物語。

◆「竹取物語」のあらすじをつかもう。

1 かぐや姫の発見と成長

竹取の翁が、竹の中に小さな女の子を見つけて連れて帰り、育てる。女の子は、三か月ほどで美しい姫に成長する。姫の名を「かぐや姫」という。



2 貴公子たちと帝の求婚

かぐや姫の美しさを聞いて、五人の貴公子たちが求婚する。誰とも結婚したくないかぐや姫は、貴公子一人一人に難題を持ちかけ、結局貴公子たちの求婚は、全て失敗に終わる。帝も姫との結婚を望み、宮中に迎えようとする。



月の世界の住人であると告白したかぐや姫。かぐや姫は、実は天上(月の世界)で罪を犯したため、罰として地上に送られてきたのだった。八月十五日の夜、姫は養父母である竹取の翁たちに別れを告げ、月からの迎えとともに、月の世界に戻つていく。

3 かぐや姫の昇天

帝は二千人の兵士を遣わし、翁の家を守らせたが、姫の昇天を止めるることはできなかつた。姫がいなくては、姫から贈られた不老不死の薬も何の意味もない。帝は天に一番近いとされる「富士山」で、薬を燃やした。

4 富士の山

竹取物語 No.3

() 組 氏名 ()

◆ 冒頭部分から、現代とは違う仮名遣いをしているものや、現代では見られない言葉などを抜き出そう。

★ 現代とは仮名遣いが異なるもの

★ 現代では見られない言葉

◆ 仮名遣いのきまりについて知ろう。

〈昔と今の仮名遣いの違い〉

- ◆ 今の仮名遣い ↓ ()
- ◆ 昔の仮名遣い ↓ ()

☆ 「歴史的仮名遣い → 現代仮名遣い」の 6 大原則 を覚えよう。

原則 6	原則 5	原則 4	原則 3	原則 2	原則 1
ア段十う(ふ) イ段十う(ふ) 工段十う(ふ) ↓イ段十よ+う	「ん」 ← 「む」	「か・が」 ← 「くわ・ぐわ」	「い・え・お」 ← 「ゐ・ゑ・を」	「じ・ず」 ← 「ぢ・づ」	語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」 「わ・い・う・え・お」 ←
ア段十う(ふ) ↓ 才段十う イ段十ゆ+う	例 やうやう うつくしう てふてふ ↓	例 やむことなく↓	例 くわじ きぐわん ↓	例 ゐど こゑ をのこ ↓	例 はぢる めづらし ↓

◆覚えておきたい古語一覧

（昔と今で意味の異なる語）

古語	現代の意味	昔の意味
あした	翌日	
あはれ	かわいそう	
あやし	疑わしい	
ありがたし	うれしく思う	
いたづら	わるふざけ	
いとほし	いとしい	
うつくし	美しい	
おとなし	おとなしい	
おどろく	びっくりする	
おもしろし	おかしい	
かしこし	かたい	
かたし	りこうだ	
かなし	悲しい	
きこゆ	聞こえる	
けしき	風景	
さうざうし	さわがしい	
年ごろ	ふさわしい年齢	
なほ	さらにいつそう	
ののしる	においがする	
めでたし	悪口を言う	
やうやう	よろこばしい	
わろし	まもなく	
やがて	やつと	
居る	存在する	
をかし	こつけいだ	
悪い		
趣がある		

（現代では見られない古文特有の語）

古語	意味
あいなし	つまらない
あまた	（）
あらまほし	望ましい
いと	（）
いとど	（）
いみじ	（）
うし	ますます
おはす	はなはだしく
おぼす	つらい
かばかり	いらつしやる
具す	お思いになる
かち	こんなにも
げに	（）
さうらふ	（）
さらなり	（）
たまふ	（）
さうらふ	（）
つきづきし	（）
つとめて	（）
つれづれ	（）
とく	（）
のたまふ	（）
はべり	（）
はた	（）
まらうぢ	（）
やむごとなし	（）
ゆかし	（）
知りたい・見たい	
客	
たいへん尊い	
その上また	
お仕えする	

（現代では見られない古文特有の語）



◆「蓬萊の玉の枝」を音読しよう。

各文の最初の言葉をヒントに、暗唱にチャレンジしてみよう。

◆自分の音読を友達に聞いてもらい、ABCで評価し合おう。

評価項目		評価者	評価者	評価者	評価者
①歴史的仮名遣いを間違えずに読んでいる。		()	()	()	()
②文の区切りやリズムに気を付けて読んでいる。		()	()	()	()

◆特に手が込んでいると思う「嘘」の部分に線を引いてみよう。

「嘘」を見つけよう。

★結局、匠たちの訴えにより発覚した、くらもちの皇子の「嘘」。くらもちの皇子という人物について、自分の考えを書いてみよう。

これやわが求むる山ならむと思ひて、さすがに恐ろしくおぼえて、山のめぐりをさしめぐらして、二、三日ばかり、見歩くに、天人のよそほひしめたる女、山の中よりいで来て、銀の金しろかねかなまつ鎰まつたを持ちて、水をくみ歩く。これを見て、船より下りて、「この山の名を何とか申す。」と問ふ。女、答へていはく、「これは、蓬莱の山なり。」と答ふ。これを聞くに、うれしきことかぎりなし。

その山、見るに、さらに登るべきやうなし。その山のそばひらをめぐれば、世の中には、色々の玉の橋渡せり。そのあたりには、照り輝く木かかやども立つたり。それには、瑠璃色の水、山より流れいでたり。銀・瑠璃色の水、山より流れいでたり。その中に、この取りてまうで來たり。しづかに違はましかばと、この花を折りひしに違はましかばと、この花を折りてまうで來たるなり。

自分だったう

「嘘」のどんなところが上手だと思う?

◆他の四人の貴公子の冒険談を読み、それぞれの人物の思いや行動について考えよう。くらもちの皇子とも比べてみよう。

人物	
理由	

◆五人の貴公子の冒険談の中で、おもしろいと思った人物や話はどれだろう。
おもしろいと思った理由も書いてみよう。

名前	石作りの皇子	右大臣あべのみうし	大納言大伴のみゆき	中納言たりみのまろいか
特徴	未練がましい男	だまされやすい男	逆上しや	男気の毒な男
難題	仏の御石の鉢	衣火鼠の皮	竜の首にある五色に光る玉	燕の子安
それぞれの冒険の結末	山寺で拾った鉢を差し出すが、かぐや姫にせ物だと見破られてしまう。しかし、その後も姫に言い寄る。	中国で、にせ物の皮衣を買わされてしまう。その皮衣は、かぐや姫の目の前で見事に燃えてしまつた。	航海に出るが、嵐にあつて死にかける。あげくの果てには、難題のしる。	苦労してつかんだと思つた子安貝は実は燕のフンだった。籠から落ちて転落、それがもとで死んでしまう。
人物に対する自分の考え方				

◆月に帰るかぐや姫、翁たち、帝について、それぞれの行動から人物の気持ちを想像してみよう。

誰の	どんな思い
根拠（行動・言葉・本文から）	

◆「竹取物語」の登場人物と、現代を生きる自分たちのと間に共通する「思い」は何だろう。

人物	行動	その時の気持ち
かぐや姫	<ul style="list-style-type: none"> 月を見て嘆き悲しみ、月へ帰ることを涙ながらに告げる 翁たちや帝に贈り物をする 	

竹取物語

No.8 「ポスターセッション」

()組 氏名 ()

◆ポスターセッションについて知ろう。

ポスターセッションとは・・・

調べたことを掲示物（ポスター）にまとめ、それをもとに説明や交流を行う発表会。同じ会場にいくつものコーナーを作り、複数のグループが同時に発表する。聞き手は興味のあるポスターの前に集まって聞く。発表者と聞き手の距離が近く、質疑応答や意見交換をしやすいうことが特長。

ポスターセッションの流れ（2回繰り返す）

① 予告

発表内容を簡潔に紹介

② 移動

発表者はポスターの前で待機
聞き手は聞きたいグループの前へ

1分 4分 6分 1分 30秒

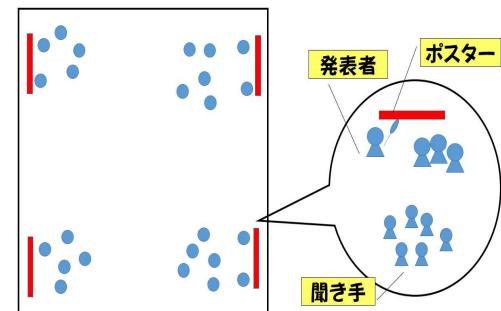
発表するとき

- ①できるだけ、聞き手の表情や反応を確かめながら話そう。
- ②指し棒でポスターを指し示しながら、分かりやすく伝えよう。
- ③聞き手に質問するなどして働きかけ、興味を引くような工夫をしよう。
- ④質問の内容を予想し、答えられるようにしておこう。
- ⑤うなづくなど、発表に対する反応を示しながら聞こう。
- ⑥説明の要点や感想など、メモを取りながら聞こう。
- ⑦質問や意見など積極的に発言し、交流を盛り上げよう。

それぞれの注意点を頭に入れておこう。



会場図



計画カード

紹介したい作品	選んだ理由

◆グループで話し合い、ポスター作成の計画を立てよう。

ポスターに書く内容（共通事項）

ジャンル（その特徴）

作者

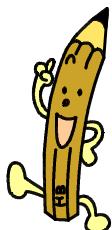
時代

あらすじ・内容

現代にも通じるところ

「竹取物語」との比較

+

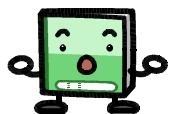


構成カード

◆グループごとに、必要な情報を選択し、ポスターにのせる内容を決めよう。

内容	おわり	なか	はじめ	構成
メモ				内 容
				資料・図
				担当者

資料はどんなものを用意すればいいかな。絵などもあると分かりやすいね。



何を中心に、どんな順番で説明すれば、聞き手に興味をもってもらえるかな。

打ち合わせカード

◆キヤッチコピーとレイアウト・予想される質問などを考えよう。

【キヤッチ
コピー】

【予想される質問】

【答え】

【予想される質問】

【答え】

大きなレイアウトをメモしておこう。



どんな質問が予想できるだろう。みんなで相談して、その答えも考えよう。

◆自分の分担の発表原稿を、《例》を参考に書いてみよう。

例

できあがった
ら、同じグルー
ブの友達に見て
もらおう。



選んだ作品と選んだ理由など

はじめ

な か

おわり

選んだ作品の魅力と
「竹取物語」との比較
など

＊選んだ作品の特徴
が伝わるよう工夫しよう。

*ギャッチャンコリーなど用いて、興味を引くような投げかけをしよう。

聞き取りカード

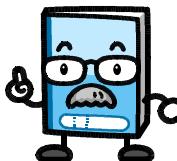
◆発表者の意見、それに対する自分の考え方などを記録しよう。

作品名				
発表内容				
心に残ったこと 気付いたこと				



意見を述べる時は、「誰のどの部分に対しての質問か」をはっきり言おう。
積極的に発言して、交流の時間を盛り上げよう！

説明の要点や感想など、メモを取りながら聞こう！



竹取物語

No. 13 「ポスターセッション」

() 組 氏名 ()

◆ ポスターセッションを振り返り、自己評価してみよう。

□には、A B C Dを記入しよう。

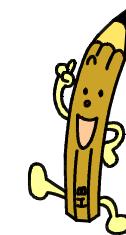
- | |
|-------------|
| A でき |
| B だいたいできた |
| C あまりできなかった |
| D できなかった |

発表の聞き方や質疑応答の仕方について	発表の仕方について	発表の内容や、ポスターのまとめ方について	
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	発表者として
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	聞き手として
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	グループとして

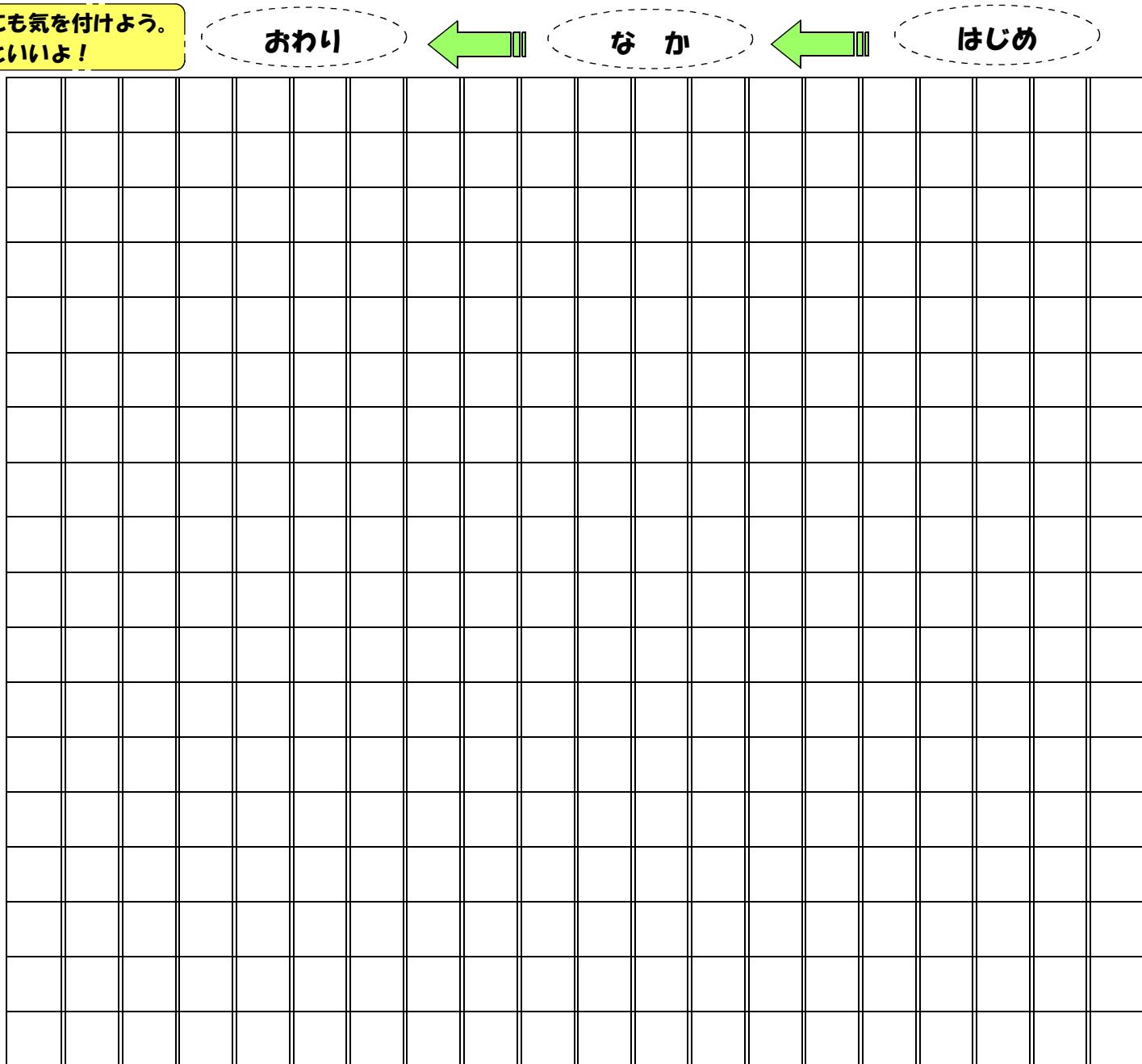
◆みんなで作つた「古典リスト」を参考に、「竹取物語」が現代まで読み継がれてきた理由を自分なりに考え、350字程度でまとめてみよう。



文章の構成にも気を付けよう。
3段落作るといいよ！



「竹取物語」の魅力は何だろう。現代に生きる
自分たちとの共通点もたくさんあつたね。



単元名	登場人物の生き様を通して、「平家物語」の世界を詠み深める ～自分のイチ押し登場人物について語ろう～
単元の目標	作品から読み取ったことを基に行うパネルディスカッションを通して、「平家物語」を読み深めることができる。

■ 本時の展開 (1/8) 見通し1の①

- (1) ねらい 「平家物語」の冒頭部分「祇園精舎」を読み、作品について知るとともに、単元全体の学習についての見通しをもつ。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート① プrezentation資料
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 単元のねらいと学習内容を知る。	4分	<ul style="list-style-type: none"> これから「平家物語」という古典作品を読んでいくことと、それを通して得た自分の思いを交流し合うことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 「平家物語」について知っていることを発表させる。 <p>[学習課題] 「祇園精舎」の音読を通して「平家物語」について知ろう。</p>
2 「平家物語」について知る。 ワークシートの空欄を埋めながら、「平家物語」という作品について見ていきましょう。 ・「平家物語」には、聞いたことのある人物がたくさん出てくるんだな。 ・琵琶法師が語って広まった物語なんだな。	12分	<ul style="list-style-type: none"> 「平家物語」は、源平の合戦の様子や平家の滅亡を琵琶法師が語り伝えた物語であること、「軍記物語」というジャンルであることを押さえ、源氏や平家の人物が多く描かれていることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> 内容…平家の栄華 壇の浦の戦いでの滅亡 など 人物…平清盛 源頼朝 源義経 弁慶 木曾義仲 那須与一 など </div> <ul style="list-style-type: none"> 「平家物語」は「平曲」という語り物であるため、音楽的な効果のある文体であることを確認するとともに、映像や音楽などの資料を用いて生徒の興味を喚起する。
3 「祇園精舎」を音読する。 15分間で暗唱できるよう、何度も「祇園精舎」を読みましょう。 ・とてもリズムの良い文章だな。 ・これなら暗唱できそうだ。	22分	<ul style="list-style-type: none"> 1学年で学習した「竹取物語」の音読の注意点を思い出させ、歴史的仮名遣いや文の区切り、古典特有の言い回しなどに注意しながら音読することを確認する。 「平家物語」独特の文章のリズムや対句表現なども音読の中で確認する。 楽しみながら音読・暗唱できるように、読ませ方を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> ①追い読み→②交代読み→③二人読み→ ④グループ読み→⑤たけのこ読み→⑥スピード読み </div> <p>◎滑らかに音読できない生徒には、五音と七音のリズムに気を付けるよう助言する。</p>
4 ミニ音読発表会を行い、お互いの音読を聞き合う。	8分	<ul style="list-style-type: none"> 暗唱できる生徒には、積極的に発表させるようにする。 リズムを意識して読めた生徒を賞賛し、読む際の参考にさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> ◇文語のきまりや仮名遣いに注意したり、作品の特徴を生かしたりしながら音読している。 (観察・発表)【言】 </div>
5 今後の学習について見通しをもつとともに、パネルディスカッションのテーマを確認する。 テーマ：平家物語の人々が大切にしていたものは？ ～自分のイチ押し登場人物について語ろう～ ・それぞれの人物について、しっかり読み取っていきたいな。	4分	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に学習したプレゼンテーションを思い出させ、それが相手の理解や同意を得るために説明・提案であることに対し、パネルディスカッションは意見を交流し、深める話し合いであることを押さえる。 パネルディスカッションは作品を読み深めるための手立てであることを確認し、作品を読み深める際の目標を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 10px;"> 目標 作品の中から心に残った人物を一人見つけること。 そしてその人物を通して平家物語について考えること。 </div>

■ 本時の展開 (2/8) **見通し1の②**

- (1) ねらい 登場人物の様子を想像しながら「扇の的」を音読し、自分なりの感想をもつ。
 (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート② プレゼンテーション資料
 (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は「平家物語」の中の「扇の的」という場面を読むことと、前時と同じように音読することを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 <p>[学習課題] 「扇の的」を、登場人物の様子を想像しながら音読しよう。</p>
2 「扇の的」のあらすじをつかむ。 「扇の的」は、物語全体のどの場面にあたるでしょう。あらすじをつかみましょう。 ・屋島の戦いで、大将は義経だな。	10 分	<ul style="list-style-type: none"> 屋島の戦いが舞台であることや、それまでの源平の合戦の経緯などを説明する。 現代語訳やビジュアル資料を活用することで、当時の様子を想像しやすくする。 今後、登場人物に焦点を当てた学習を展開するために、「扇の的」での主な登場人物、「源義経、那須与一、黒革をどしの鎧の男」について押さえる。
3 「扇の的」を音読する。 「祇園精舎」と同じように、何度も読んでみましょう。今回は登場人物たちの様子を想像しながら音読しましょう。 ・この場面も、とてもリズムが良いな。 ・矢が飛んでいく場面は、様子が想像できるなあ。 ・与一は弓を射るとき、どんな気持ちだったんだろう。 ・男は、なぜ舞を舞ったのかな。 ・義経という大将は、どんな人だったんだろう。	25 分	<ul style="list-style-type: none"> 「平家物語」の文体の特徴、特に七五調や対句、擬音語や漢語的な表現を確認し、それを音読に生かすよう助言する。 「登場人物の行動に着目しながら読む」「描かれている情景を想像しながら読む」など、音読の際のポイントを提示する。 <p>◎楽しみながら音読・暗唱できるように、前時同様読ませ方を工夫する。つまずいている生徒には、二人読みでチェックさせるようにする。</p> <p>①交代読み → ②二人読み → ③グループ読み → ④スピード読み</p> <ul style="list-style-type: none"> 暗唱までチャレンジできるよう、音読練習は場面の情景が想像しやすい前半場面（与一が弓を射るところまで、P 138～140）とする。 最後に再度ペアで読み合い、相互評価させる。 <p>◇「平家物語」のもつ独特のリズムや、表現の効果などを意識しながら音読している。 (観察・ワークシート)【言】</p>
4 登場人物に対する自分なりの感想をもつ。 3人の人物に対する感想を「○○は△△な人物である」という一文で表してみましょう。	10 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時に行う登場人物の心情理解への準備として、那須与一、黒革をどしの鎧の男、源義経の3人についての感想をもたせる。 3人の登場人物についての感想を一文でワークシートに記入させる。その際は、そう思う根拠も記すよう伝える。 ペアで交流し合うようにする。
5 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、「扇の的」をさらに読み深め、登場人物の心情を考えていくことを知らせる。

■ 本時の展開（3／8） 見通し2の①

(1) ねらい 「扇の的」の内容を読み深め、登場人物の心情を理解する。

(2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート③

(3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は「扇の的」について内容をとらえ読んでいくとともに、登場人物の心情を理解していくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 「扇の的」の3人の登場人物について、行動の意味や気持ちを考えよう。		
2 「扇の的」の登場人物の行動やセリフの意味を考え、人物の心情について理解する。 「扇の的」にはどんな人物が出てきましたか。その人物たちの行動の意味や、その時の気持ちを考えてみましょう。 ・与一の失敗は、源氏全体の恥となってしまう。死を覚悟するのも当然だな。 ・与一はなぜ、船の上の男を射倒したのだろう。命令に背いたらどうなるのかな。 ・男は、与一の腕に感心して舞を舞ったのだろう。悪いことをしていないのに殺されてしまうなんてかわいそうだ。 ・義経が、男を射させた理由がよく分からないな。ここが戦場だからだろうか。 ・危険を承知で弓を拾うほど、義経にとって大切なものは何なのだろう。	45 分	<ul style="list-style-type: none"> ・那須与一、黒革をどしの鎧の男、源義経の3人に焦点を当てて読んでいくことを確認する。 ・考えさせたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ◆那須与一について 神々に祈る場面、死の覚悟、大将の命令は絶対であるという武士の宿命 ◆黒革をどしの鎧の男について 舞を舞った理由、源平双方の評価、「あ、射たり」「情けなし」の言葉の意味 ◆源義経について 黒革をどしの鎧の男を射させた意味、弓を拾った義経の武士としての名誉 ・常に自分に引き寄せて考えられるよう、自分の考えをもつ際のポイントとして、「共感できる点」「疑問に思う点」を示し、そこから「自分だったらどうするか」という考えをもたせる。 ◎考えがもてない生徒には、自分の経験と最も照らし合わせやすい与一を中心に考えるよう助言する。 ・矢が扇を射るまでの描写から、その場の緊迫した様子をとらえられるようにする。 ・源氏と平家の戦の中での出来事であることを押さえるために、対句表現に着目させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">◇描写の効果や登場人物の言動の意味などを考えて古文の内容を理解している。</div> <div style="text-align: right; margin-top: 5px;">(ワークシート)【読】</div>
3 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、「平家物語」の他の場面「敦盛の最期」を読み、別の登場人物の心情を考えていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (4/8) 見通し2の②

- (1) ねらい 「扇の的」と比較しながら「敦盛の最期」を読み、人物の心情を考えるとともに、二つの場面から最も心に残った人物を一人選び出す。
- (2) 準備 教科書 資料集 「敦盛の最期」本文 (ワークシート④) ワークシート⑤⑥
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。 「扇の的」と比較しながら「敦盛の最期」の場面を読んでみましょう。	3分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は「扇の的」と比較しながら「敦盛の最期」という別の場面を読み、前時と同じように心情を理解していくことと、二つの場面の登場人物から一人を選んでいくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 「敦盛の最期」は、特徴的な人物が登場することや、昔から様々な芸能の題材として取り上げられていたことを紹介する。 <p>[学習課題] 「敦盛の最期」の2人の登場人物について、行動の意味や気持ちを考えよう。</p>
2 「敦盛の最期」のあらすじをつかむ。 ・敦盛は、自分たちとはあまり変わらない若者だったんだな。 ・この場面は、「扇の的」とはまた違う感じがするな。	10分	<ul style="list-style-type: none"> 原文は教師の範読にとどめ、資料集や現代語訳を活用しながら内容を確認する。 熊谷次郎直実と平敦盛の2人に焦点を当てて読んでいくことを確認する。
3 「敦盛の最期」の登場人物の行動やセリフの意味を考え、人物の心情について理解する。 「敦盛の最期」にはどんな人物が出てきましたか。その人物たちの行動の意味や、その時の気持ちを考えてみましょう。 ・直実は、なぜ敦盛を助けようと思ったのだろう。自分の息子を思い出したのかな。 ・敦盛は、なぜ助けを拒んだのかな。プライドが許さなかったのだろうか。	20分	<ul style="list-style-type: none"> 考えさせたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ◆平敦盛について 「早く首を取れ」と言った理由 ◆熊谷次郎直実について 敦盛を助けたいと思った理由、出家を志した理由 常に自分に引き寄せて考えられるよう、自分の考えをもつ際のポイントとして、「共感できる点」「疑問に思う点」を示し、そこから「自分だったらどうするか」という考えをもたせる。 「扇の的」の義経や与一との相違点もとらえさせる。
4 最も心に残った人物を一人選んで自分の考えをもつ。 二つの場面の登場人物の中で、自分のイチ押し登場人物は誰ですか。押したい理由も含めて考えてみましょう。 ・人物によって、様々な思いがあったんだな。 ・それぞれの人物が大切にしていたものは違うようだ。	15分	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ人物を基にパネルディスカッションを行うことを再度確認し、二つの場面の登場人物から選ぶよう伝える。 「その人物を選んだ理由」「その人物が大切にしているものとそれに対する自分の考え」を明確にもたせ、それをワークシートに記入させる。 <p>◎記入ができない生徒には、No.3・5のワークシートを確認させ、その記述を基にするよう助言する。</p> <p>◇古文に表れているものの見方や考え方を基に、登場人物について自分の考えをもっている。 (ワークシート)【読】</p>
5 次時の予告を聞く。	2分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、本時のワークシートを基に自分の考えをまとめるとともに、パネルディスカッションの準備をしていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (5/8) 見通し3の①

- (1) ねらい パネルディスカッションの意義と方法を理解するとともに、前時に選んだ人物について自分の考えをまとめ、グループを作って交流し合う。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート⑦⑧
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3分	<ul style="list-style-type: none"> 本時はパネルディスカッションの方法を理解するとともに、前時に選んだ人物についてのメモを基に、自分の考えをまとめ交流することを知らせ、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] パネルディスカッションのグループを作り、自分の考えを友達と交流しよう。		
2 パネルディスカッションの具体的なイメージをもつ。 パネルディスカッションの意義と方法を確認しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションで交流するのは楽しそうだな。 答えを一つにする必要はないのか。いろんな考えに気付くことが大切なんだな。 フロアの重要性が分かった。話合いを盛り上げられるように頑張ろう。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションの特徴として、「一つのテーマについて複数の立場の者が意見を述べ合い、参加者全員で理解を深めていく」とする形式であること」、「見方や考え方の広がりや深まりを期待する話合いであること」の2点を確認する。 結論を求めるることはせず、お互いの立場を認め合うことが重要であることを押さえる。 パネリスト、司会、フロアの役割を確認する。その際、特にフロアの重要性を強調しておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆パネリスト テーマについてグループの代表として意見を述べる。異なる立場のパネリストと討論を行ったり、フロアから質問や反論があった場合はそれに答えたりする。</p> <p>◆司会 全体の進行を行う。パネリスト同士の討論を活性化させたり、フロアに積極的な発言を促したりする。</p> <p>◆フロア パネリスト同士の討論を聞き終わったら、全体討論に加わる。自分のグループの意見について補足したり、他のグループのパネリストに質問や反論をしたりする。</p> </div>
3 選んだ人物に対する自分の考えをまとめめる。 選んだ人物とその根拠を200字程度でまとめてみましょう。	20分	<ul style="list-style-type: none"> その人物を選んだ根拠を明確にして書くよう助言する。 根拠 … 人物の行動、言葉、心情を表す叙述 前時に記入したワークシートを基に、自分との共通点や相違点だけでなく、自分のこれまでの経験や知識と関連付けて書くようにさせる。
4 同じ人物を選んだ者同士でグループを作り、考えを交流し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 同じ人物を選んでいても、根拠や共感するところが違うものなんだな。 自分の意見のキーワードは何だろう。みんなにしっかり伝えられるようにしよう。 	15分	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ根拠を明確にしながら話すよう助言する。 同じ人物を選んでも、根拠や共感できる点などに差異があることも考えられる。その際は、お互いに認め合うことを確認する。 <p>◎積極的に交流できない生徒には、「立論カード」の主張と根拠の部分を中心に述べるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次時にスムーズにKJ法に入れるよう、自分の意見のキーワードになると思われる事柄に、線を引かせておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分の経験や知識と関連付けて考えをまとめ、交流して深めている。 (ワークシート・観察)【読】</p> </div>
5 次時の予告を聞く。	2分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、グループの意見を集約し、さらにパネルディスカッションの準備を進めていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (6 / 8) 見通し3の②

- (1) ねらい グループの意見を集約し、話し合いを深めるとともに、役割分担などの準備を行う。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑨⑩ 付箋紙 画用紙 ストップウォッチ
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は、役割分担を決めたりグループごとに話し合ったりしながらパネルディスカッションに向けて準備を進めることを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] パネルディスカッションの準備として、グループの意見をまとめよう。		
2 グループの意見を集約し、核になる意見を決める。 話し合いのマニュアルに従い、グループの意見をまとめてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> みんなの意見の良いところを探しながら話し合おう。 グループとして、どんな意見を中心に据えれば説得力が増すかな。 	20 分	<ul style="list-style-type: none"> 様々な意見を合意形成していくための手段として、KJ法を用いる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆話し合い (KJ法) の手順</p> <ol style="list-style-type: none"> ①キーワードを付箋紙に記入する。 ・ワークシートを基に、できるだけ多く書く。 ②自分の考えを述べながら、画用紙に貼る。 ③付箋紙をグルーピングする。 ・グループにタイトルをつける。 ・小グループを大グループにまとめる。 ④考えを集約していく。 ・各グループ間を、ストーリーのようにつなぐ。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 前時に線を引いておいたキーワードを基に、効率よく話し合いに入らせる。 グループ全員で話し合い、核になる意見を決めるよう助言する。
3 パネリストを選出し、他のグループからの質問や反論を予想しながら発表内容を整理する。 グループごとに、パネルディスカッションの準備をしましょう。 <ul style="list-style-type: none"> 人物の特徴が一番分かる部分はどこかな。 他の人物を選んだグループの意見を予想すると、質問されそうなことが分かるね。 	20 分	<ul style="list-style-type: none"> 核になる意見を基に、選んだ登場人物の特徴が分かる内容になるよう、整理させる。 自分たちの意見の問題点も考え、反論を予想したり反論に答える準備をしたりする。 <p>◎積極的に交流できない生徒には、机間支援で声を掛けるとともに、全員が意見を述べられるよう、話し合いのリーダーに助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> パネリスト一人の意見に頼らないよう、発表の方向性が決まったらパネリストを一人選び、グループ内でプレ発表会を行わせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分の経験や知識と関連付けて考えをまとめ、交流して深めている。 (ワークシート・観察) 【読】</p> </div>
4 司会、書記、時計係など、話し合いを進行する係を決める。	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 司会は特に重要な役割なので、教師がフォローに入り、ともに話し合いを進めていくことを伝える。
5 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、実際にパネルディスカッションを行うことを知らせる。

- ◆時間外の活動として、パネリスト、進行係で事前打ち合わせをする。(事前打ち合わせ用 ワークシート使用)
- ・パネリストの発表順
 - ・各グループの主な論点とそれに対する意見
 - ・フロア全体での討論の仕方

■ 本時の展開 (7/8) **見通し3の③**

- (1) ねらい パネルディスカッションを行い、自分の考えを深める。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑪ パネルディスカッションに必要な諸道具
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は準備に基づき、実際にパネルディスカッションを行って考えを交流することを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 「平家物語」の登場人物について、パネルディスカッションで交流しよう。		
2 パネルディスカッションの注意点を確認する。 有意義な話合いになるよう、自分の役割をもう一度確認しましょう。 ・他のグループの意見もしっかりと聞き、自分の意見と比較できるようにしよう。	7 分	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて、単に賛成・反対だけではない様々な考え方方に触れ、その違いをとらえることがパネルディスカッションの特性であることを、再度確認する。 ・パネリストには、結論を先に述べ、他の立場や意見との違いを明確にして発表するよう準備させておく。 ・フロアは、パネリストの意見の要旨や気付いたこと、質問事項などをワークシート（聞き取りカード）に記入しながら聞くように指示する。根拠に注意し、自分の意見と比べながら聞くことで、新たな見方に気付いたり自分の考えを深めたりすることが重要であることを押さえる。
3 パネルディスカッションを行う。 パネルディスカッションの流れ ①テーマの確認とパネリストの紹介 (1分) ②各パネリストからの意見発表 (各2分) ③パネリスト同士の討論 (7分) ④フロアを交えての全体討論 (13分) ⑤各パネリストによるまとめ (各1分) ⑥司会によるまとめ (5分)	38 分	<ul style="list-style-type: none"> ・進行計画の時間配分に沿って、パネルディスカッションを行う。 ・フロアには、積極的な参加を求める。発言する際には、聞き手のことも考え、分かりやすく話す工夫をさせる。特に、誰のどの部分に対しての質問や意見かを明らかにさせる。また、自分と同じグループのパネリストへの賛成（追加・補助）発言をしてもよいことを伝える。 ・多くの生徒が自分の考えを発言できるよう、通常のパネルディスカッションより全体討論の時間を多く設定する。 ・司会は基本的に生徒の役割とするが、「テーマから話題がそれたら元に戻す」「必要に応じて意見を要約する」「論点を整理し話をかみ合わせる」など多くの大切な役割があることから、状況に応じて支援する。 ◎討論に積極的に参加できない生徒には、メモを取らせる際、自分の考えと似ている意見や違った見方などに注目するよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">◇自分の考えとその根拠、反論などを組み合わせて分かりやすく話したり、自分の考えと比較しながら聞いたりしている。 (観察・発表) 【話・聞】</div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、パネルディスカッションを振り返り、「平家物語」の学習のまとめをしていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (8 / 8) 見通し3の④

- (1) ねらい パネルディスカッションを振り返り、討論を通して深まった考えを自分の言葉で表現する。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑫ (自己評価カード) ⑬
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時はパネルディスカッションを振り返り、深まった自分の考えを文章に書き表すことで「平家物語」の学習のまとめをしていくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] パネルディスカッションを通して深まった自分の考えを、文章にまとめよう。		
2 パネルディスカッションでの討論について、各自で自己評価する。	7 分	<ul style="list-style-type: none"> 前時のパネルディスカッションについて、「話すこと・聞くこと」と「作品を読み深めること」の2点から自己評価させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> パネルディスカッションはどうでしたか。振り返ってみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ○○さんの意見は、とても共感できるものだったな。 新しい見方に気付かせてくれた意見がたくさんあったな。 平家物語の他の場面も読んでみたいな。 </div>
3 全員でパネルディスカッションを振り返る。	10 分	<ul style="list-style-type: none"> パネルディスカッションを行って学んだことや、気付いたことについて発表させる。 自己評価の際に机間支援を行い、意図的な指名ができるようにする。
4 平家物語やその登場人物について、自分の考えをまとめる。	25 分	<ul style="list-style-type: none"> 前時のパネルディスカッションや自己評価カードを基に、気付いた読みの深まりを中心に考えを書くよう指示する。 書く内容が絞り込めない生徒には、自分が選んだ登場人物について、新たに気付いたことを加えながらまとめるよう助言する。 できあがった文章はグループごとに綴じ込み、お互いに鑑賞し合うことを知らせ、文章の構成など読み手の存在にも意識を向かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◇現代を生きる自分の知識や経験、思いと重ねながら、作品を通じて考えたことを書いています。 (自己評価カード・ワークシート)【読】 </div>
5 教師の話を聞く。	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 古典の楽しさや作品の奥深さを伝え、「平家物語を全編読んでみたい」「他の作品にはどんなものがあるのだろう」といった生徒の興味関心が喚起できるようにする。

平家物語 No.1 「祇園精舎」 () 組 氏名 ()

◆ 「平家物語」という作品について学ぼう。画面を見ながら記入してみよう。

- () 時代に成立した () というジャンルの作品。
- () 一門の () 年にわたる () の物語。
- () と () の戦いを中心に、() の榮華から滅亡までを描いたドラマ。

○ 漢語を交えた文章には独特的の調子とリズムがあり () として盲目の () によって語られた。

- 作品全体を貫く思想 || ()

人間のはかなさ・永久不变のものはないとする考え方

◆ 平家の栄枯盛衰の歴史を知ろう。

- 1 力を増す平家とその榮華
- 2 意のままに振る舞う平家
- 3 源氏の挙兵
- 4 平家の滅亡

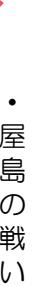


「平家にあらずんば人にあらず」

- ・宇治川の戦い
- ・一ノ谷の戦い (ひよどり越の坂落し)
- ・屋島の戦い (扇の的)
- ・壇の浦の戦い



3 源氏の挙兵



4 平家の滅亡



作品から読み取つたことを、「パネルディスカッション」で交流し合おう!

テーマ

平家物語の人々が大切にしていたものは?
自分のイチ押し登場人物について語ろう!

主な登場人物

平家側

源氏側

★ 何度も読んで、暗唱にチャレンジしよう！



★ 一回読んだら〇を塗りつぶそう。
目指せ10回！

琵琶法師たちは、日本全国を歩き、この物語を語り伝えました。文字が分からなくて理解でき、耳で聴いておもしろく感じる音楽的な効果のある文章です。

琵琶法師のイラスト

- ① 祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり
- ② 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらはす
- ③ おごれる人も久しうからず ただ春の夜の夢のごとし
- ④ たけき者もつひには滅びぬ ひとへに風の前の塵に同じ

対
句

対
句

平家物語 No.2 「扇の的」 () 組 氏名 ()

◆「扇の的」の音読をお互いに評価し、ABCを記入してみよう。

評価項目	評価者	評価者	評価者
①歴史的仮名遣いを間違えずに読んでいる。	()	()	()
②文の区切りやリズムに気を付けて読んでいる。	()	()	()
③場面の様子が分かるように読んでいる。	()	()	()

◆「扇の的」の三人の登場人物について、感想を書いてみよう。

3 スト の男 のイラ スト 黒革 をどし の鎧	2 イラスト 源義経の イラスト	1 イラスト 那須与一の イラスト	人物 「〇〇は△△な人物である」と一言で表したら・・ そう思う根拠
---	---------------------------	----------------------------	---

平家物語 No.3 「扇の的」 () 組 氏名 ()

◆ 「扇の的」の登場人物たちの心情を考えよう。

那須与一

() 側の武将

与一 目をふさいで、
「南無ハ幡大菩薩、我が國の神明、日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、願はくは…」

★ 義経の命令を受け、神々に成功を祈る与一

○ いつ ()
○ 風と波の状況

弓を構える
与一のイラスト

もし射損じたら

与一、かぶらを取つてつがひ、よつぴいてひやうど放つ。

★ 見事に船上の扇を射落とす与一

○ 与一が使った矢

名前 ()

長さ ()

扇と舟の上の
女房のイラスト

○ 矢を放つ音

扇を射切る音

()

扇のイラスト

「御定ぞ、つかまつれ。」

矢を射る与一の
イラスト

★ 義経の命令で、船上の男を
射倒す与一

自分だったう



なぜだろう?



共感できるな

黒革をはしの鎧を着た男

（ ） 側の武将

あまりのおもしろさに、感に堪へざるに
やとおぼしくて、・・・

★ 感激のあまり、船上で舞を舞う男

船上で踊る
男のイラスト

源氏側
源氏の
武将の
イラスト

平家の
武将
平家側

情けなし。

（ ） 側の武将

★ 船上で舞を舞う男を射させる義経

「御定ぞ、つかまつれ。」

★ 「弓流し」の場面で、命がけで弓を拾う義経

「…『これこそ源氏

の大将九郎義経が弓
よ。』とて、嘲弄せんず
るが口惜しければ、命
にかへて取るぞかし。」

義経の
イラスト

馬で海に乗り入れる
義経のイラスト

自分だったう
👉

なぜだう
❓

共感できるな
💡

自分だったう
👉

なぜだう
❓

共感できるな
💡

平家物語 No.4 「敦盛の最期」（）組 氏名（）

◆本文（抜粹）と現代語訳

国語便覧P72・73と一緒に見よう。

「そもそもいかなる人にてましまし
候ふぞ。名のらせたまへ。助けま
ふらせん。」と申せば、

「なんぢはたそ。」と問ひたまふ。

「そなたはだれか。」とお尋ねになる。

「物そのもので候はねども、武藏國の住人、熊谷次郎直実。」と名のり申す。

「名のるほどの者ではございませんが、武藏國の住人、熊谷次郎直実です。」と名のり申し上げる。

「さては、なんぢにあうては、名のるまじいぞ。なんぢがためにはよい敵ぞ。名のらズとも首をとつて人に問へ。見知らうずるぞ。」とぞのたまひける。

「それでは、そなたに向かっては名のるまいぞ。そなたにとつてはよい敵である。名のらなくとも、（私の）首をとつて人に尋ねるがよい。見知つているであろうぞ。」とおつしゃつた。

「いつたいどのような（身分の）方でいらっしゃるのでしょうか。お名のりください。お助け致しましょう。」と申し上げると、

熊谷、「あつぱれ大將軍や。」この人一人討ちたてまつたりとも、負くべきいくさに勝つべきやうもなし。また討ちたてまつらずとも、勝つべきいくさに負くることもよもあらじ。小次郎が薄手負うたるをだに、直実は心苦しうこそ思ふに、この殿の父、討たれぬと聞いて、いかばかりか嘆きにな

熊谷は、「ああ、大將軍じや。」このお方一人お討ち申したとしても、負けるはずのいくさに勝つはずもない。またお討ち申さなくとも、勝つはずのいくさに負けることはよもやないであろう。（我が子の）小次郎が軽傷を負ったのさえ、直実はつらく思うのに、この殿の父は、（息子が）討たれたと聞いて、どれほどかお嘆きになるだろう。ああ、お助け申したいものだ。」

きたまはんずらん。あはれ助けたてまつらばや。」と思ひて、後ろをきつと見ければ、土肥、梶原五十騎ばかりでつづいたり。

熊谷、涙をおさへて申しけるは、「助けまゐらせんとは存じ候へども、味方の軍兵、雲霞のごとく候ふ。よものがれさせたまはじ。人手にかけまゐらせんより、同じくは、直実が手にかけまゐさせて、後の御孝養をこそつかまつり候らはめ。」と申しければ、

熊谷が涙をこらえて申したことには、「お助け申そとは思いますが、味方の軍勢が雲や霞のようにたくさん集まつてきています。とうていお逃げになることはできないでしょ。他人の手におかけ申すより、同じことなら、直実の手におかけ申して、死後の供養をしてさしあげましよう。」と申すと、

「ただとくとく首をとれ。」とぞのたまひける。

熊谷、あまりにいとほしくて、いづくに刀を立つべしともおぼえず、目もくれ心も消えはてて、前後不覚におぼえけれども、さてしもあるべきことならねば、泣く泣く首をぞかいてんげる。

熊谷は、あまりにかわいそうで、どこに刀を立ててよいかわからず、目もくらみ、人心地なくなつて、混乱して心乱れるように思われたが、そうしてばかりもいられないことなので泣く泣く首をかき切つた。

と思い、後ろをさつと見ると、土肥、梶原が五十騎ほどで続いている。

平家物語 No.5 「敦盛の最期」（ ）組 氏名（ ）

◆「敦盛の最期」の登場人物たちの心情を考えよう。

★義経の命令

熊谷次郎直実

（ ）側の武将

★敦盛を何とか助けたいと思う

直実

「……あはれ、助けたて
まつらばや。」

「……直実が手にかけま
えらせて、後の御孝養を
こそつかまつり候はめ。」

直実と敦盛の
イラスト

★武士の身を残念に思い、出家を
決意する直実

（直実は、その後仏門に入る）

苦悩する直実
のイラスト

平敦盛（ ）側の武将

★笛の名手

★戦場でも笛を身に付ける敦盛

敦盛の笛の
イラスト

「さあ、早く
首を取れ」
と言う敦盛
のイラスト

「さては、なんぢに
あうては、名のる
まじいぞ。……」

「ただとくとく首
をとれ。」

★直実に首を取らせる敦盛

覚悟を決めた
敦盛のイラスト

自分だったう
（手）

なぜだろう
（？）

共感できるな
（電球）

自分だったう
（手）

なぜだろう
（？）

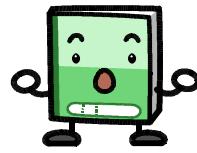
共感できるな
（電球）

◆「平家物語」の人々は、何を大切にして生きていたのだろうか？
ワークシートNo.3・5を参考にしながら書いてみよう。

イチ押し登場人物は誰？

名前	大切にしていたもの	その人物を選んだ理由	自分の考え	

例にあげた以外にも、いろいろ思いつきそうだね。
自分なりに考えてみよう。



親子の情

風流な心

主君の命令

武士としての
名誉



当時の人ならではの苦悩も
あったかもしれないね…

◆パネルディスカッションについて知ろう。

パネルディスカッションとは・・・

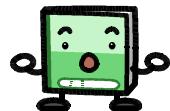
討論の形式の一つ。あるテーマについて異なる意見をもつパネリスト（提案者）が意見を発表し、その後、会場のフロア（聴衆）が加わって意見を交換する。

一つの結論を求めるのではなく、立場の違いを認め合いながら、一人一人の考え方を見直したり深めたりすることが目的。

パネルディスカッションの流れ

- ① テーマの確認とパネリストの紹介 1分
- ② 各パネリストからの意見発表 各2分
- ③ パネリスト同士の討論 7分
- ④ フロアを交えての全体討論 13分
- ⑤ 各パネリストによるまとめ 各1分
- ⑥ 司会によるまとめ 5分

他にも、書記係や時計係が必要だよ。



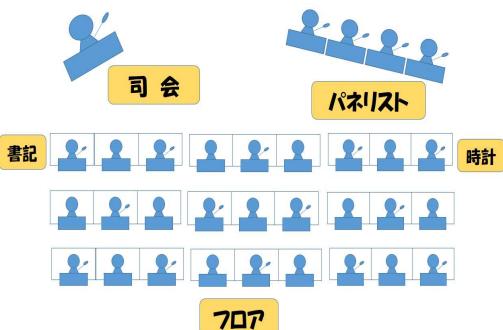
フロア
全体の進行を行う。パネリスト同士の討論を活性化させたり、フロアに積極的な発言を促したりする。

司会
パネリスト同士の討論を聞き終わったら、全体討論に加わる。自分のグループの意見について補足したり、他のグループのパネリストに質問や反論をしたりする。

パネリスト

テーマについて、グループの代表として意見を述べる。異なる立場のパネリストと討論を行ったり、フロアから質問や反論があつた場合はそれに答えたりする。

会場図



平家物語
No. 8 「パネルディスカッショニ
（ ）組 氏名（ ）

No. 8 「パネルディスカッショニ

()組 氏名()

1

◆作品から学んだことを、パネルディスカッションで深めよう。
No. 6 のワークシートを基にして、自分の考えを200字程度にまとめよう。

立論カード

『立論の書き方（例）』

私は、〇〇という人物は（ ）であると考えます。
理由は△つあります。
す。」

「うわ、これでどうすんだよ。」

根拠

- * 自分の考え方の根拠になることを、分かりやすく
- * セリフや行動、本文の内容などから
- * 自分との共通点や相違点、自分の経験などから

まとめ

「以上の如きより、
〇〇せ～であると
想ふが。」

（例）を参考にしながら、できるだけ具体的に分かりやすく書こう！



◆グループで意見を交流し合い、まとめよう。

★話し合い（ＫＪ法）のやり方マニュアル

① 自分の「立論カード」を見ながら、自分の意見のキーワードになるとと思われる事柄を付せん紙に記入する。（2分）

・付せん紙一枚につき、一つの事柄を簡潔にまとめる。

・この付せん紙が話し合う時の材料になるので、できるだけ多く書く。

② 自分の考えを述べながら、付せん紙を画用紙に貼つていく。（3分）

③ 全員の付せん紙が貼られたら、似たような内容のものを集め、小グループニングする。（10分）

・小グループに分けたら、それにタイトルをつける。

・小グループ同士でまとめられるものがあればまとめ、大グループを作る。

④ 全員で話し合い、考えを集約する。（5分）

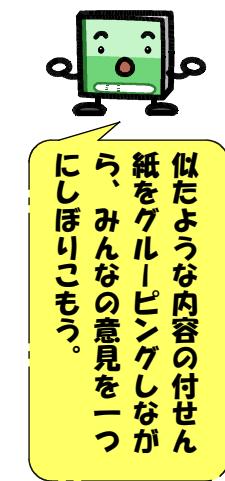
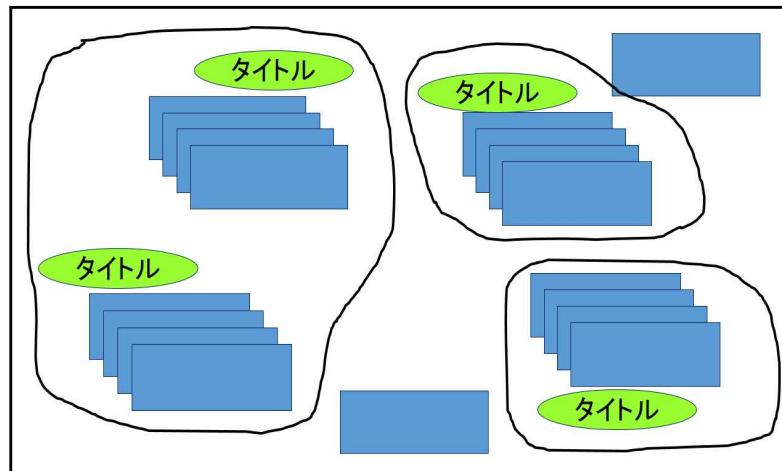
・まとめた大グループの間を、ストーリーの

ようにつないでいく。

◆グループの「中心となる意見」を決めよう。

班

みんなの意見を大切にしながら話し合おう！



平家物語 No.10「パネルディスカッション」（ ）組 氏名（ ）

◆グループごとに、パネルディスカッションの準備をしよう。

打ち合わせカード

・（ ）班
・パネリスト氏名（ ）

【代表者の立論】

【強調したい内容】

【予想される質問・反論】

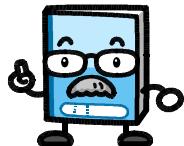
【答え】

【予想される質問・反論】

【答え】

特に押したい部分を
はっきりさせておこう。

要点を簡潔にまとめよう。
説得力をもたせるために、
根拠も忘れずに。



どんな質問や反論が予想できる
だろう。
みんなで相談しよう。

◆パネリストの意見、それに対する自分の考え方などを記録しよう。

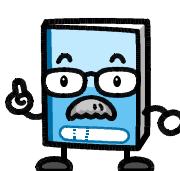
聞き取りカード

() さん	() さん	() さん	() さん	パネリストの意見
? △ ○ ◎	? △ ○ ◎	? △ ○ ◎	? △ ○ ◎	共感度
				気付いたこと 考えたこと
				質問や反論



意見を述べる時は、「誰のどの部分に対しての質問や意見か」をはっきり言おう。
フロアは、話し合いを深める重要な役割。
積極的に発言しよう！

自分の意見と比べながら聞こう！
きっと新しい発見や気付きがあるはず！



◆ 「自分の考えに新しい視点を加えてくれた意見」「優れている・共感できると思われた意見」を書いてみよう。

【パネリスト同士の討論の時】

【全体討論の時】

【パネルディスカッションを通して感じたこと】

◆パネルディスカッションを振り返り、自分の取り組みを評価してみよう。

「話すこと・聞くこと」について

- ① テーマについて複数の立場があることを理解し、自分の立場で意見や根拠について考えることができた。

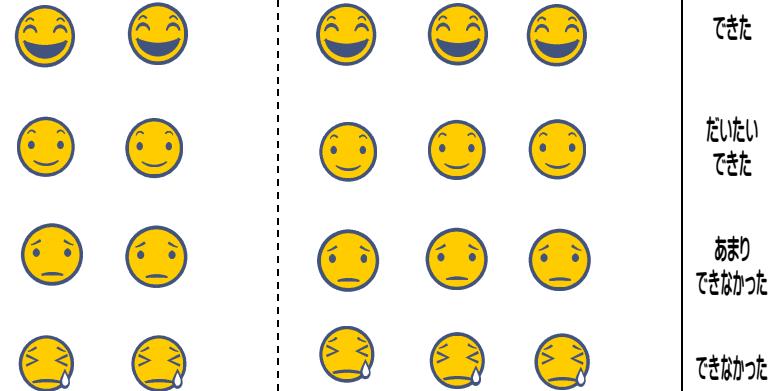
② 自分の考えと比較しながら、他のグループの意見を聞くことができた。

③ 聞き手が分かりやすいように工夫しながら根拠を明確にして自分の意見を述べることができた。

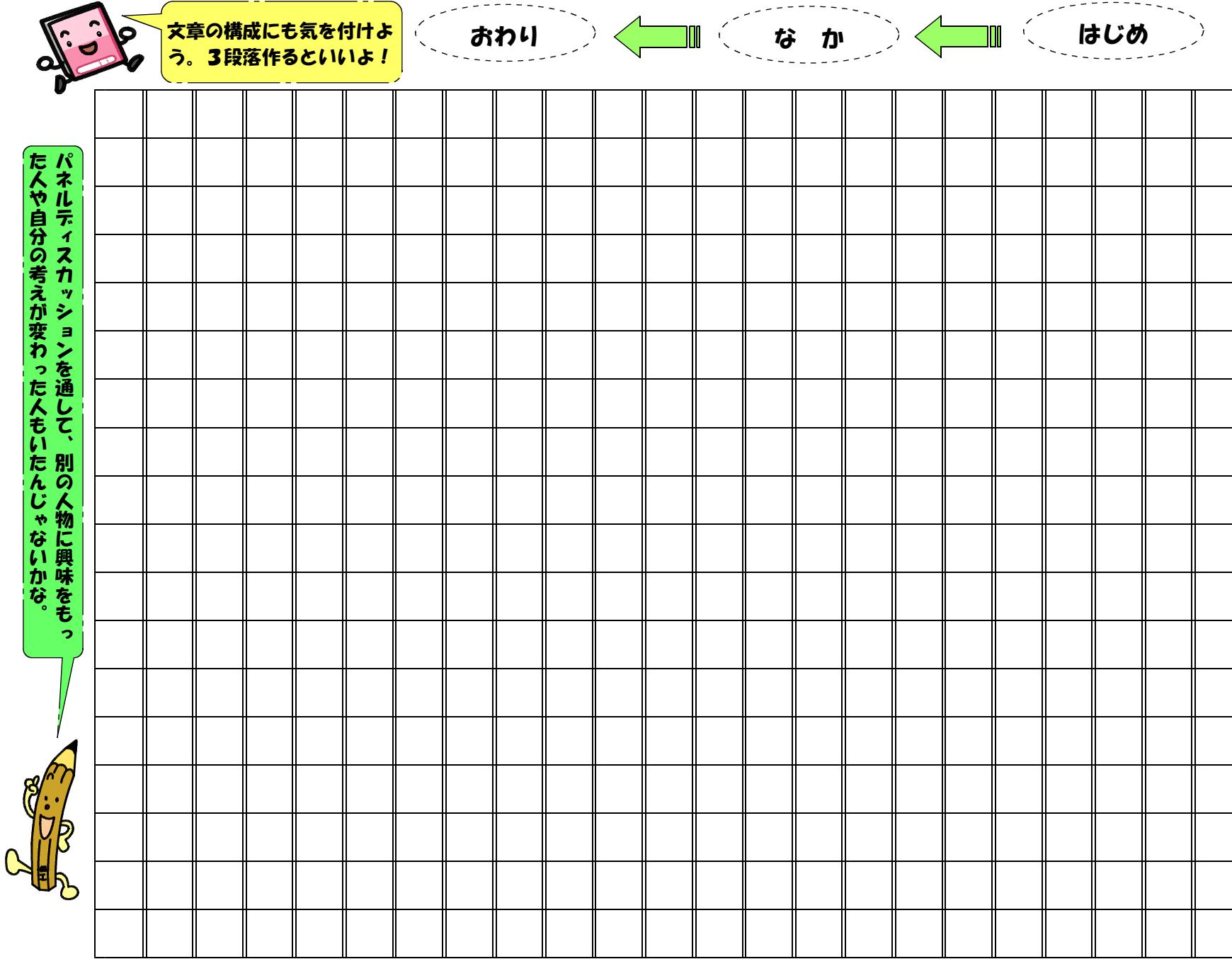
「作品を読み深めること」について

- ①他のグループの意見を聞いて、新たな見方に気付いたり、自分の考えを深めたりすることができた。

②平家物語の人々の生き方と自分とを比べながら考えることができた。



◆パネルディスカッションを通して、「平家物語」やその登場人物について新たに気付いたことや深まつた考えがきっとあるはず。それを400字程度でまとめてみよう。



平家物語 「パネルディスカッショニ

() 組 氏名 ()

進行係 事前打ち合わせカード

- ・司会者氏名 ()
- ・時計係氏名 ()
- ・書記氏名 ()

()さんの意見	()さんの意見	()さんの意見	()さんの意見	()さんの意見	()さんの意見
他のパネリストとの対立点	他のパネリストとの対立点	他のパネリストとの対立点	他のパネリストとの対立点	この意見への予想される質問や反論	この意見への予想される質問や反論
この意見への予想される質問や反論					

◆発表順

- ()
- ()
- ()
- ()
- ()

◆①質問や反論に備えておべあこと・②根拠や具体例などの補充

①		①
②		②

◆メモ

司会の手引き

あいさつ

テーマの確認
パネリストの紹介パネリストの
意見発表パネリストの
意見発表パネリストの
意見発表パネリストの
意見発表司会による
まとめ

- ★他の人の意見を聞くことで、新しいものの見方に気付いたり、考えが広がつたりすることがあります。ここでは、パネルディスカッショニをするところで、いろいろな意見を検討し、自分の考えを深めましょう。
- ★それでは始めます。司会を行う（ ）です。よろしくお願ひします。今日のテーマは、「平家物語の人々が大切にしていたものは？」自分のイチ押し登場人物について語ろう」です。
- ★パネリストを紹介します。（ ）さん、（ ）さん、（ ）さん、そして（ ）さんです。
- ★パネリストの発表や討論を行った後、フロアの皆さんにも討論に加わってもらい、全体で意見交換をします。フロアの皆さんには、パネリストがどんな意見をもつているのか、しつかり聞いてください。
- ★では、パネリストの意見発表を行います。時間は一人2分です。まず、（ ）さんからお願ひします。【発表】ありがとうございました。（後は繰り返し）
- ★それでは、今出された意見について、パネリストの皆さんで討論をしていきます。（ ）さんの意見について質問や反論などがありますか。（ ）という意見が出ましたが、○○さんいかがですか。（ ）
- ★ここで全体討論に入ります。フロアの皆さんからも質問や意見など、たくさん出してください。発表する時には、まず誰のどんな意見に対するものかを述べてから発表してください。何かありますか。（似たような意見はまとめて受ける）
- （話が話題からそれたら、元に戻す）
- （意見が出ないときは、「考える時間をとります。近くの人と話し合つてみてください」と投げかける）
- （ ）どうしていいか分からなくなつたら、先生に助けを求める
- ★最後に、これまでの話合いを受けてのまとめを、各パネリストから発表してもらいます。それでは（ ）さんからお願ひします。
- 【発表】ありがとうございました。（後は繰り返し）
- ★では最後に、話合いのまとめをします。（話合いの要点をまとめると同時に、自分の意見や感想も述べる）
- ★以上でパネルディスカッショニを終わりにします。皆さん、ご協力ありがとうございました。

単元名	芭蕉とともに「おくのほそ道」を旅する ～「芭蕉道中記」を編集しよう～
単元の目標	俳句に込めた芭蕉の思いを、自分の選んだ形態の文章に表す活動を通して、「おくのほそ道」を読み深めることができる。

■ 本時の展開 (1/7) 見通し1

- (1) ねらい 「おくのほそ道」の背景知識の把握と音読を通して、作品について知るとともに、単元全体の学習についての見通しをもつ。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート① プレゼンテーション資料
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 単元のねらいと学習内容を知る。	4分	<ul style="list-style-type: none"> これから「おくのほそ道」という古典作品を読んでいくことと、読み取った芭蕉の思いを文章に表して交流し合うことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 「おくのほそ道」について知っていることを発表させる。

[学習課題] 「おくのほそ道」の背景知識の把握や音読を通して、作品について知ろう。

2 「おくのほそ道」の背景知識について知る。 ワークシートの空欄を埋めながら、「おくのほそ道」という作品について見ていきましょう。 ・芭蕉の名前は、知っているな。 ・芭蕉はずいぶん長い旅に出たんだな。旅先で俳句を詠んだのか。	17分	<ul style="list-style-type: none"> 作者である松尾芭蕉については、彼の生涯と著名な俳句の紹介、さらに日本を代表する俳人でもあることなどを押さえる。 「おくのほそ道」という作品については、「紀行文」というジャンルの最高峰の一つと言われていることや、芭蕉が旅先で作った俳句が散りばめられていることなどを押さえる。 全体の内容や芭蕉の旅の行程、また芭蕉という人物についてつかむために、資料集の他に映像資料を用いて生徒の興味を喚起する。
3 単元の目標をつかむ。 テーマ：俳句でたどる 「おくのほそ道」 ～「芭蕉道中記」を 編集しよう～ ・修学旅行記の代わりに、芭蕉の旅行記を書くんだな。 ・芭蕉は、旅先で俳句にどんな思いをめたんだろう。	2分	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の「書くこと」の単元「文章の形態を選んで書こう 修学旅行記を作る」と組み合わせて学習していくことを伝える。 旅先で詠んだ芭蕉の俳句を中心に、その時の芭蕉の思いを考えていくことと、その思いを様々な形態の文章に書き表し、交流し合うという課題とテーマ、作品を読み深める際の目標を提示する。 <p>目標 俳句に込めた芭蕉の思いを基に、「おくのほそ道」を読み深めること。そしてその思いを、様々な形態の文章に書き表すこと。</p>
4 「おくのほそ道」全文を音読する。 文章の特徴を生かしながら、本文（「1門出」「2平泉」）を音読しましょう。 ・「竹取物語」や「平家物語」とはリズムが違うな。 ・頑張って暗唱してみよう。	25分	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきた作品とは異なる、芭蕉独特の格調高い文体（漢文調の言い回し、対句的な表現など）に着目させる。 暗唱できる生徒には、積極的に発表させるようにする。 楽しみながら音読・暗唱できるように、読ませ方を工夫する。 <p>①追い読み→②交代読み→③二人読み→ ④グループ読み→⑤たけのこ読み→⑥スピード読み</p> <p>◎滑らかに音読できない生徒には、歴史的仮名遣いとリズムに気を付けるよう助言する。</p> <p>◇文語のきまりや仮名遣いに注意したり、漢文調の文体を生かしたりしながら音読している。 (観察・発表)【言】</p>
5 次時の予告を聞く。	2分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、「1門出」を読み進め、芭蕉の旅に対する思いを考えていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (2/7) 見通し2の①

(1) ねらい 「1門出」の場面を読み、芭蕉が旅に寄せる心情を理解する。

(2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート②

(3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は「1門出」の場面について内容をとらえ読んでいくとともに、芭蕉が旅に寄せる心情を理解していくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 「1門出」の場面から、芭蕉の旅に対する思いをとらえよう。		
2 現代語訳や脚注を参考にしながら、内容をとらえる。 「1門出」の部分を読み、芭蕉にとって「おくのほそ道」の旅がどのような意味をもつのかを考えましょう。 ・芭蕉がどんなにこの旅に出たかったかが伝わるな。 ・芭蕉は、旅の途中で死んでもいいと考えていたのかな。 ・早く旅に出たくてたまらない様子が伝わってくるようだ。 ・自分の家まで人に譲ってしまうなんて、なかなかできることだ。	30 分	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉にとっての旅のもつ意味や、旅への思いを中心に読み取っていくことを確認する。 ・考えさせたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ◆「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」に込められた、芭蕉の人生観 芭蕉の「旅」に対する考え方、古人（芭蕉が目標とする、旅に生き旅に死んだ詩人たち）への憧れ ◆旅に出たい気持ち 三つの支度の内容と、出立を心待ちにしている芭蕉の様子 ◆「草の戸も住み替はる代ぞ離の家」の俳句に込められた思い 芭蕉の住まいを表す複数の言葉、家を人に譲る意味、芭蕉のこの旅に対する覚悟 ・自分に引き寄せて考えられるよう、生徒自身がもつ旅のイメージと、芭蕉の旅への思いの共通点や相違点に目を向けさせる。 ・「草の戸も…」の俳句に込められた芭蕉の思いを考えさせる。芭蕉庵の住人が住み替わることを理解し、家を手放し、二度と戻ってくることのない芭蕉の強い決意を押さえる。
3 旅に対する芭蕉の思いについて話し合う。 ・自分が考えていた旅のイメージと、芭蕉の旅はずいぶん違うな。 ・みんなの意見は参考になるな。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉の旅への思いは、現代の旅行観とは大きく異なることを、語句や表現からとらえさせる。 ・自分の考えとその根拠を明確にして話すよう助言する。 ◎イメージできない生徒には、修学旅行を思い出させ、出立前にどのような心境だったかを考えさせる。 ・少人数のグループを編成し、話合いを行いやすい雰囲気を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◇芭蕉の旅に対する思いを、自分の考えや体験などと比較しながらとらえている。 (観察・ワークシート)【読】</p> </div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、「2平泉」を読み進め、芭蕉が平泉で感じたことを読み取っていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (3/7) 見通し2の②

- (1) ねらい 「2平泉」の場面を読み、芭蕉が平泉で感じた思いを理解する。
- (2) 準備 教科書 資料集 ワークシート③
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3分	・本時は「2平泉」の場面について内容をとらえ読んでいくとともに、芭蕉が平泉で感じた思いを理解していくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 「2平泉」の場面から、芭蕉の心情をとらえよう。		
2 現代語訳や脚注を参考しながら、内容をとらえる。 「2平泉」の部分を読み、平泉を訪れた芭蕉が、何を見て何を感じたのかを考えましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・栄華を誇っても、結局は滅んでしまうところなどは、「平家物語」と似ているな。 ・芭蕉が、源義経を慕っていたことがよく分かるな。 ・芭蕉は、高館と光堂で反対の光景を見たんだな。俳句から、それがよく分かる。 	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・この場面は現代語訳が教科書に掲載されていないので、脚注を参考に、家庭学習で現代語訳をまとめさせておく。 ・芭蕉が藤原三代の栄華と滅亡、源義経の自害、昔をしのばせる光堂の姿などから、何を感じ取ったのかを中心に読み取っていくことを確認する。 ・考えさせたい事柄 <ul style="list-style-type: none"> ◆奥州藤原氏の栄華と滅亡 繁栄を誇った藤原氏と、そこからくまわれた義経主従の自害、草原と化した場所で感じた人間の営みのはかなさ、無常観 ◆「春望」の引用と芭蕉の涙 「春望」が書かれた状況と、芭蕉の見ている情景との共通点 ◆芭蕉が光堂で感じた思い 人々の努力によって、草むらとならずすんでいる光堂への感動
		<ul style="list-style-type: none"> ・無常観や源義経など、既習の「平家物語」の学習を思い出させる。 ・平泉については、歴史の授業で学んだ知識を確認させたり、世界遺産に登録されていることを知らせたりする。 ・自分に引き寄せて考えられるよう、芭蕉の行動と自分の行動とを比較する視点をもつよう助言する。 ・芭蕉作の二句に込められた思いを考えさせる。高館と光堂とで、俳句に詠まれている情景の違いを押さえる。
3 芭蕉が高館と光堂で、それぞれ何を感じたのかについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・草むらになってしまった高館と、昔の姿が残っている光堂の違いは何だったんだろう。 ・〇〇さんは、自分と同じ感じ方をしているな。 	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・高館と光堂で、それぞれ何を見たのかを確認し、その時の心情を話し合わせる。 ・高館と光堂では、人間の営みに対して相反する感じ方をしていることを押さえる。 ・自分の考えとその根拠を明確にして話すよう助言する。 <p>◎考えがもてない生徒には、芭蕉の俳句を思い出させ、俳句に詠まれた情景をヒントにするよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>◇芭蕉のものの見方や考え方をとらえ、それに対する自分の考えをもっている。</p> <p>(観察・ワークシート)【読】</p> </div>
4 次時の予告を聞く。	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は、「おくのほそ道」の行程をたどりながら、他の場所で詠まれた俳句を鑑賞していくことを知らせる。

■ 本時の展開 (4/7) 見通し2の③

(1) ねらい 「おくのほそ道」の旅の行程をたどりながら、芭蕉の俳句を鑑賞する。

(2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート④

(3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は、教科書の「『おくのほそ道』俳句地図」と資料集を用いながら、芭蕉の旅の行程を確認し、それぞれの土地で詠んだ俳句を鑑賞していくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。 <p>[学習課題] 「おくのほそ道」の旅で芭蕉が作った俳句を鑑賞しよう。</p>
2 教科書や資料集を基に芭蕉の俳句を鑑賞し、俳句に込められた芭蕉の思いを想像する。	30 分	<ul style="list-style-type: none"> 取り上げる俳句は、以下の場所のものとする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 千住 日光 那須 白河 立石寺 最上川 象潟 出雲崎 金沢 小松 敦賀 大垣 </div> <ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料集の鑑賞文、写真等を手がかりに鑑賞させ、芭蕉が何に心を揺さぶられたのかを考えさせる。 鑑賞のポイント <ul style="list-style-type: none"> ◆芭蕉は何を見たのか ◆芭蕉の感動の中心 <p>・前時までの学習を基に、芭蕉にとっての旅のもつ意味や、平泉で感じた無常観などを参考に想像するよう助言する。</p> <p>・1学期に学習した「俳句の可能性」を思い出させ、俳句を鑑賞する際には、五感や想像力を働かせることが大切であることを確認する。</p> <p>◎なかなか想像できない生徒には、旅の感動がどんなところにあるか、自分自身の体験を思い出させる。</p> <p>◇俳句に表れている芭蕉のものの見方や考え方を基に、芭蕉の思いを想像している。</p> <p>(ワークシート) 【読】</p>
3 道中記を書く際に取り上げたい俳句を一つ選び、道中記を書くために必要な情報は何かを考える。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ俳句を基に道中記を記していくことを再度確認し、最も心に残った俳句を選ぶよう指示する。 その俳句を選んだ理由を明確にもたせ、それをワークシートに記入させる。 自分が選んだ俳句について、「すでにもっている情報」「これから必要な情報」は何かを考えさせる。 家庭で資料の収集ができる場合は、家庭学習として行ってくるよう指示する。 <p>芭蕉の詠んだ俳句の中で、一番心に残ったものはどれですか。一つ選び、その俳句について何を調べれば良いかを考えましょう。</p>
4 次時の予告を聞く。	2 分	<ul style="list-style-type: none"> 次時は、本時のワークシートを基に自分が選んだ俳句について調べ学習をしていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (5 / 7) 見通し3の①

- (1) ねらい 文章には様々な形態があることを理解し、道中記を書く際に必要な情報を集める。
 (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑤
 (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は、自分が選んだ俳句を基に道中記を書く際、必要となる情報を集めるなどの準備をしていくことを知らせ、学習に対する見通しをもたせる。
<p>[学習課題] 文章の形態にはどんなものがあるかを知り、道中記を書く準備をしよう。</p>		
2 文章には様々な形態があることを確認し、道中記を書く際にふさわしい形態を考える。 教科書を参考に、道中記を書く際にどんな形態の文章が考えられるか見ていきましょう。	15 分	<ul style="list-style-type: none"> 教科書P128～「文章の形態を選んで書こう 修学旅行記を作る」を参考に、文章には様々な形態があることを確認する。 修学旅行記の例を読み、同じ内容でも文章の形態によって印象が異なることを押さえる。 旅を題材にした文章としては、紀行文以外に次のような形態が考えられることを押さえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◆説明文・レポート…見学地や調べたことについて具体的に報告したい ◆随筆…旅の体験や全体的な感想を述べたい ◆意見文…旅での出来事から考えたことを訴えたい ◆物語・詩・手紙…旅先での感動を伝えたい ◆新聞・パンフレット…旅全体や名所の面白さを伝えたい </div>
3 自分が文章を書く際に必要な情報を収集する。 前時のワークシートを基に、道中記を書くために必要な情報を集めましょう。	30 分	<ul style="list-style-type: none"> 俳句に込められた芭蕉の思いを中心に道中記を記すことを確認し、「どんな目的で何を伝えたいか」を明確にもたせる。 前時に考えた「すでにもっている情報」「これから必要な情報」を書いたワークシートを基に考えさせる。 あらかじめ芭蕉や「おくのほそ道」にかかわる資料を用意しておき、いつでも見られるようにしておくとともに、現代語訳を用いて、内容について自分なりに考えたり想像したりさせる。 家庭学習で収集してきた資料も用意させ、必要があればグループで見せ合うよう指示する。 <p>◎調べ学習が進まない生徒には、教科書の「『おくのほそ道』俳句地図」と資料集を中心に必要事項をまとめるよう助言する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◇必要な情報、不足している情報を分析し、それに基づいて情報を集めている。</p> <p style="text-align: right;">(ワークシート・観察)【書】</p> </div>
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、本時の資料を基に、実際に道中記を書いていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (6 / 7) 見通し3の②

- (1) ねらい 前時に集めた情報を基に、俳句に込められた芭蕉の思いを表すのにふさわしい形態を選んで「道中記」を書く。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑥ 「道中記」を書くための用紙
- (3) 展 開

学習活動予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	・本時は、芭蕉の思いを表すのに最もふさわしい文章の形態を選んで、道中記を書いていくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
[学習課題] 自分が選んだ文章の形態で、「芭蕉道中記」を書こう。		
2 自分が表したい芭蕉の思いに最もふさわしい文章の形態を選ぶ。 俳句に込められた芭蕉の思いを表すのに最もふさわしい形態を、選びましょう。	15 分	・好きな形態を選択するのではなく、伝える目的と内容を考えた上で、最もふさわしい形態を選ぶことを伝える。 ・それぞれの形態がもつ特徴を確認し、思いを表現するのに適した形態を選ばせる。 ・文章の形態によって、構成や文体も変わることを押さえ、効果的な表現を工夫するよう伝える。
3 情報を整理し、文章にまとめる。 選んだ文章の形態に合った構成を考え、工夫して文章にまとめましょう。 ・芭蕉の感動が伝わるような文章を書こう。 ・芭蕉になったつもりで書くといいのかな。	30 分	・書いた文章は、「おくのほそ道」の行程に沿って1冊にまとめ、クラスで交流し合うことを伝え、読み手も意識させるようにする。 ・文章の中に、必ず芭蕉の俳句を引用することを確認する。どのような引用の仕方を考えれば芭蕉の思いが伝わるか、しっかり考えさせる。 ・生徒が様々な形態を選択することを考慮し、枠のみを記した用紙を用意し、自由にレイアウトさせる。 ◎書く内容が絞り込めない生徒には、自分が芭蕉だったら何を一番伝えたいかと投げかけ、芭蕉の思いに寄り添わせるようにする。 ◇自分が伝えたい内容を、文章の形態に適した構成や表現を考えながら作品としてまとめている。 (ワークシート・観察) 【書】
4 次時の予告を聞く。	2 分	・次時は、それぞれの道中記を交流し合い、「おくのほそ道」の学習のまとめをしていくことを知らせる。

■ 本時の展開 (7/7) 見通し3の③

- (1) ねらい 書いた道中記を交流し合い、「おくのほそ道」に込められた芭蕉の思いについて自分の考えをまとめること。
- (2) 準 備 教科書 資料集 ワークシート⑦⑧
- (3) 展 開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
1 本時のねらいを知る。	3 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時は書いた道中記をお互いに交流し、深まった自分の考えを文章に書き表すことで「おくのほそ道」の学習のまとめをしていくことを伝え、学習に対する見通しをもたせる。
<p>[学習課題] 書いた道中記を読み合い、改めて芭蕉の思いについて自分の考えをまとめよう。</p>		
2 書いた道中記を読み合い、各自やグループで自己評価する。 みんなの書いた道中記を読み合 い、交流しましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ○○さんの文章は、とても読みやすいな。参考にできる。 自分が選んだ形態と違うものもたくさんある。なんだか新鮮だな。 「おくのほそ道」の他の場面も読んでみたいな。 	22 分	<ul style="list-style-type: none"> 最初に、自分が書いた道中記について自己評価するよう指示する。 次にグループで読み合い、お互いに評価し合うよう指示する。 評価の観点 <ul style="list-style-type: none"> 伝えたい内容にふさわしい文章形態になっているか。 文章（紙面）の構成は工夫されているか。 文章表現は分かりやすく工夫されているか。 俳句に込められた芭蕉の思いが伝わるか。 交流し終わったら、別のグループを編制し、再度読み合う機会を設ける。
3 「おくのほそ道」や芭蕉について、自分の考えをまとめること。 芭蕉の俳句を中心に、「おくのほそ道」という作品を学んできました。学習を振り返り、改めて感じた「おくのほそ道」や芭蕉についての自分の考えを、400字程度でまとめてみましょう。	20 分	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達が書いた道中記を読み、新たに気付いたことや考えたことを中心にまとめるよう伝える。 芭蕉がどんな思いで「おくのほそ道」の旅に出たのか、それぞれの土地で俳句にどんな思いを始めたのか、これまでの学習を基に考えさせる。 <p>◎書く内容が絞り込めない生徒には、「1門出」での芭蕉の強い覚悟を思い出させ、「旅=人生」という芭蕉の価値観を基に記述するよう助言する。</p> <p>◇現代を生きる自分の知識や経験、思いと重ねながら、作品を通じて考えたことを書いています。 (自己評価カード・ワークシート)【読】</p>
4 教師の話を聞く。	5 分	<ul style="list-style-type: none"> 芭蕉の他の紀行文や俳句を紹介し、古典作品への興味関心を喚起できるようにする。 中学校3年間の古典学習を振り返り、今後も古典に親しもうとする態度の育成に向けた働きかけを工夫する。

おくのほそ道

No. 1

() 組 氏名 ()

◆「おくのほそ道」という作品について学ぼう。

○()時代に成立した()というジャンルの作品。

○作者は「俳句」で有名な()。

○()から()に至るまでの五ヶ月を超える旅の記録。漢詩文の影響を受けた文体は、対句表現を効果的に用いた力強い文章になつていてる。

○弟子の()とともに各地を回り、旅先で作った()が散りばめられている。

◆「おくのほそ道」の旅について知ろう。

8月21日 大垣

7月15日 金沢

7月2日 新潟

5月13日 平泉

3月27日 江戸 出発

その他に

芭蕉が訪れた名所



敦賀
山中温泉
高岡
象潟
立石寺（山寺）
松島
仙台
白河の関
那須
日光
最上川
出羽三山
出雲崎
敦賀
など



- ・総移動距離…約2400km
- ・総日数…約156日
- ・年齢…芭蕉46歳、曾良41歳
(当時の男子平均寿命
は42.7歳)
- ・「芭蕉は忍者か!?」という
説もあり

旅先で芭蕉が俳句に込めた思いを想像し、文章に書いて交流し合おう!

俳句でたどる「おくのほそ道」
「芭蕉道中記」を編集しよう!



おくのほそ道 No.2 「門出」 () () 組 氏名 ()

◆芭蕉にとつて「旅」とはどのようなものか、読み取ろう。

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。

★旅そのものを自分のすみかとしている人たち

○舟の上に生涯を浮かべる者 () () () ()

○馬の口とらへて老いを迎ふる者 () () () ()

○古人 () () () ()



旅に出たい気持ち

★最初の小さな旅

○「風に誘われて、あてのない旅に出たい」

「 () やまず・・・」

★「おくのほそ道」への旅

○「白河の関を越えたい (東北への旅がしたい)」

旅の準備

★身支度三つ

★自分の家の始末

草の戸も

住み替はる代ぞ

雛の家

★この俳句から読み取れること

この旅に対する芭蕉の思いとは…



おくのほそ道 No.3 「平泉」 () 組 氏名 ()

◆平泉を訪れた芭蕉の思いを読み取ろう。

三代の榮耀一睡のうちににして、大門の後は一里こなたにあり。

場所【 】

★「春望」(杜甫)の詩を思い出し、涙を流す芭蕉

功名一時の草むらとなる。

既に退廃空虚の草むらとなるべきを…

場所【 】

★光堂の美しさに感動する芭蕉

かねて耳驚かしたる二堂開帳す。

感じたこと	俳句	見たもの	
	夏草や兵どもが夢の跡		高館
	五月雨の降り残してや光堂		光堂

◆芭蕉が二つの場所でそれぞれ何を感じたのかを考えよう。

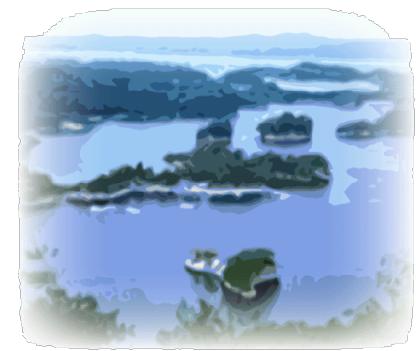
おくのほそ道 No. 4

() 組 氏名 ()

◆「おくのほそ道」の旅で芭蕉が作った俳句を鑑賞しよう。教科書の「俳句地図」や資料集を参考にしよう。

【芭蕉の秀句が読まれた場所】

千住	日光	那須	白河
立石寺	最上川	象潟	
出雲崎	金沢	小松	敦賀
大垣			



◆鑑賞した俳句の中から、「道中記」を書くときに取り上げたい俳句を一つ選び、さらに細かく鑑賞してみよう。

選んだ俳句

芭蕉が見たもの
(視覚)

視覚以外で俳句
から感じられる
こと

芭蕉の感動の
中心

その俳句を選
んだ理由

「道中記」を書
くために必要な
情報

1学期の俳句の勉強を思いだそう。
鑑賞する時には、五感や想像力を働かせ
るとよかったです！



◆文章には様々な形態があることを知ろう。そして、自分の「道中記」にふさわしい形態を考えよう。

文章の形態とは・・・

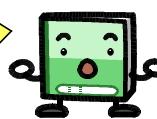
小説・詩歌・論説・手紙・脚本・報道文・随筆・レポート・意見文・パンフレットなど。

「おくのほそ道」は紀行文

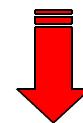
文章の形式・スタイルのこと

- 説明文・レポート → 見学地や調べたことについて具体的に報告したい
- 隨筆 → 旅の体験や全体的な感想を述べたい
- 意見文 → 旅での出来事から考えたことを訴えたい
- 物語・詩・手紙 → 旅先での感動を伝えたい
- 新聞・パンフレット → 旅全体や名所の面白さを伝えたい

自分が伝えたいことにぴったりのものを選ぼう！



課題に対する自分の思いや考えなどを適切に表現するのに最もふさわしい形態を選ぶことが大切！



たとえば・・・【場所・その場所の特徴・季節・時間・芭蕉が見たもの・感動の中心】

◆資料集などを参考にしながら、「道中記」を書くために必要な情報を集めよう。また、現代語訳を読んで、自分なりに芭蕉の思いを想像しよう。

◆自分が表したい「芭蕉の思い」にふさわしい形態を選び、工夫して「芭蕉道中記」を書こう。

伝える目的	
選んだ形態	伝えたい 「芭蕉の思い」

◆「芭蕉道中記」を書くときの約束

〔レイアウト〕

★ A4 の用紙一枚に収まる作品に仕上げましょう。

★全員の作品を、「おくのほそ道」の行程に沿つて一冊にまとめます。「読み手」がいることを意識しましょう。

★その土地で詠まれた俳句を必ず引用しましょう。

★どのように作品の中に入れば芭蕉の思いが伝わるか、考えましょう。

俳句に込められた
芭蕉の思いを
しっかり伝えよう！



◆書いた「道中記」について、自分の取り組みを評価してみよう。

項目	評価者	評価者	評価者	評価者	評価者
①伝えたい内容にふさわしい文章形態にすることができる。	笑顔	笑顔	笑顔	笑顔	笑顔
②文章（紙面）の構成を工夫することができた。	笑顔	笑顔	笑顔	笑顔	笑顔
③文章表現を、分かりやすく工夫することができた。	笑顔	笑顔	笑顔	笑顔	笑顔
④俳句に込められた芭蕉の思いが伝わるような作品を書くことができた。	笑顔	笑顔	笑顔	笑顔	笑顔
	たい	たい	たい	たい	たい
	たいたい	たいたい	たいたい	たいたい	たいたい
	できた	できた	できた	できた	できた
	できなかつた	できなかつた	できなかつた	できなかつた	できなかつた
	できなかつた	できなかつた	できなかつた	できなかつた	できなかつた

◆友達の「道中記」をお互いに評価し、A B C Dを記入してみよう。

評価項目	評価者	評価者	評価者	評価者
①伝えたい内容にふさわしい文章形態になつていいか。	()	()	()	()
②文章（紙面）の構成は工夫されているか。	()	()	()	()
③文章表現は分かりやすく工夫されているか。	()	()	()	()
④俳句に込められた芭蕉の思いが伝わるか。	()	()	()	()

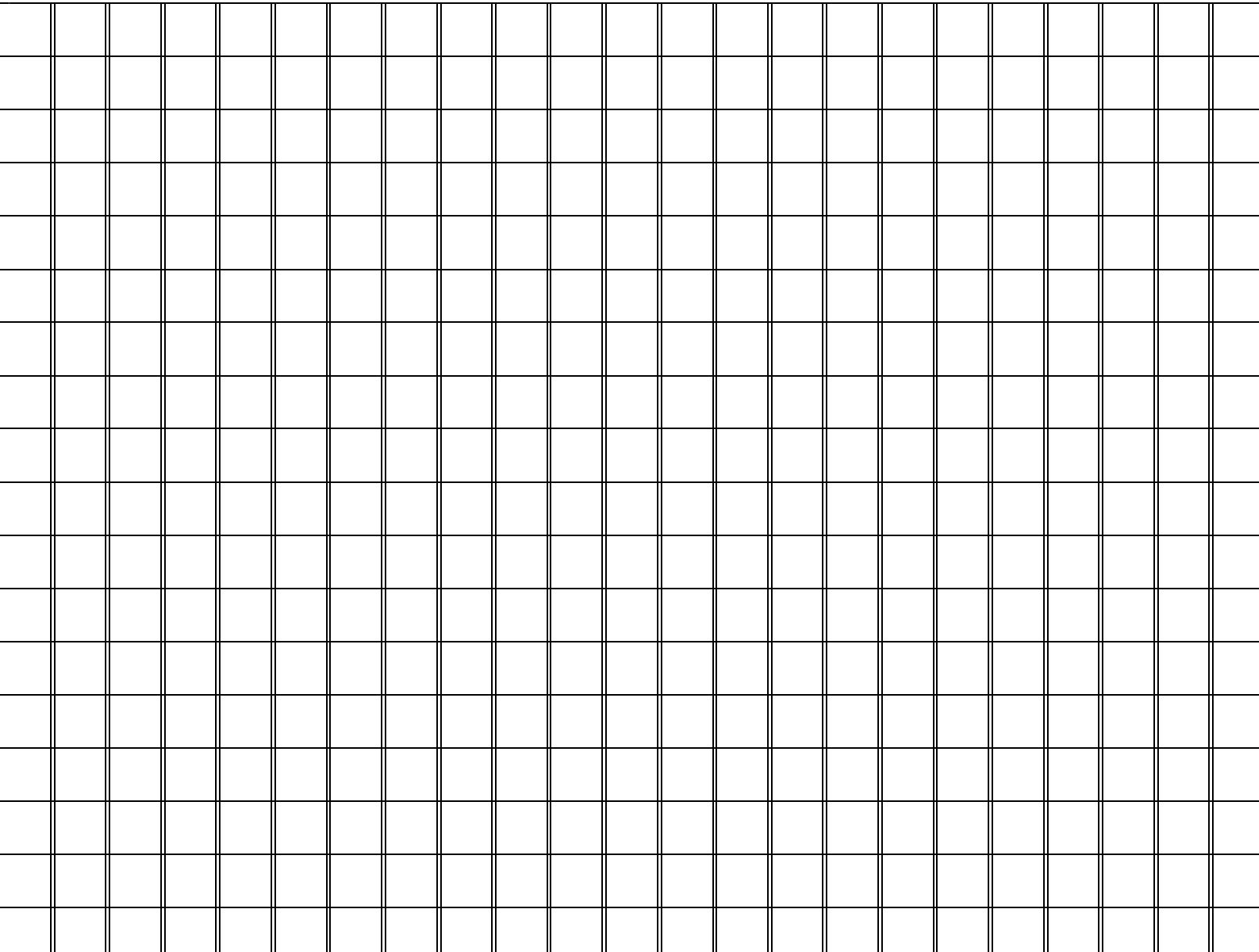
◆「道中記」について、感想を書こう。

【「道中記」を書いたり読んだりしながら、「みんなも芭蕉と一緒に「おくのほそ道」の旅ができたかな。」



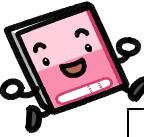
おぐのほそ道 No.8「学習のまとめ」（ ）組 氏名（ ）

◆俳句をもとに「道中記」を書く活動を通して、「おぐのほそ道」や芭蕉について新たに気付いたことや深まつた考えがきつとあるはず。それを400字程度でまとめてみよう。

はじめ	なか	おわり
		

360

180



文章の構成にも気を付けよう。
3段落作るといいよ！

もう一度、改めて「おぐのほそ道」という作品や、松尾芭蕉という人物について考えてみよう。

